
第2次堺市スポーツ推進計画

平成28年4月

堺市

はじめに



みなさま、一緒に「スポーツ」をしませんか？

スポーツには、様々な「力」があります。たとえば、世界最高の舞台上で競い合うアスリートたちのパフォーマンスは、観る人々に勇気や感動を与え、国民としての連帯感さえも生み出します。自らスポーツをすることでより多くの楽しみや感動を得ることができ、体力の向上はもちろんのこと、余暇の活用やストレスの解消など心身の健康づくりや、人と人との交流、地域間の交流を促すなどの効果もあります。

また、我が国のスポーツを取り巻く環境は、平成31年のラグビーワールドカップ日本大会、平成32年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、平成33年の関西ワールドマスターズゲームズ2021と、世界中の関心が集まるスポーツイベントが相次いで開催されます。

今後、これまで以上にスポーツの機運が高まるとともに、スポーツによる都市活力の創出にむけてオールジャパン体制での取組に期待が寄せられています。

一方、堺市では、平成24年9月に「堺市スポーツ推進計画」を策定し、市民の皆様にはスポーツを身近に感じてもらえるよう各種スポーツ施策を実施してきた結果、成人のスポーツ実施率の向上や小中学生の体力向上などの効果がありましたが、一方で運動不足と感じる市民の割合が高いなどの課題も依然としてあります。また、J-GREEN堺や泉州国際市民マラソンをはじめとする国内外とのスポーツ交流を通じて、本市の魅力を発信することにより、本市への誘客につなげ、都市を活性化する取組が必要です。

このような現状を踏まえ、スポーツを通じたまちづくりをさらに進めるべく、このたび「する」「みる」「ささえる」「ととのえる」の4つの視点で、「第2次堺市スポーツ推進計画」を策定しました。前計画に引き続き、誰もが「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しむ環境を提供し、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまち「スポーツタウン・堺」の実現をめざしてまいります。

結びにあたり、本計画の策定に際し、多大なご尽力をいただいた堺市スポーツ推進審議会委員の皆様、市民意識調査等で貴重なご意見をいただいた市民の皆様をはじめ、ご協力をいただきましたすべての皆様に心からお礼申し上げますとともに、今後、本計画を推進するにあたり、皆様の更なるご指導ご協力をお願い申し上げます。

平成28年4月

堺市長 **竹山 修身**

目次

1	計画策定の趣旨	4
2	計画の位置づけ	5
3	計画期間	5
4	前計画の総括	6
	（1）重点取組項目ごとの取組と評価	6
	（2）前計画の指標	8
5	現状（課題）と今後の方向性	9
	（1）「する」	10
	（2）「みる」	14
	（3）「ささえる」	16
	（4）「ととのえる」	18
6	スポーツを取り巻く現況	20
7	特色ある本市のスポーツ資源	21
8	取組施策	24
	取組方針1「する」：スポーツをする機会を提供します！	25
	（1）スポーツを気軽に実施できる仕組みの充実	25
	（2）市民スポーツイベントの推進	26
	（3）青少年の運動習慣の確立に向けた取組	27
	（4）高齢者のスポーツ活動の推進	28
	（5）障害者のスポーツ活動の推進	29
	取組方針2「みる」：スポーツを観るきっかけを創出します！	31
	（1）スポーツの魅力発信・情報発信	31
	（2）スポーツを通じた本市の魅力発信	32
	取組方針3「ささえる」：スポーツ活動を支える体制づくりを進めます！	33
	（1）スポーツ指導者や市民ボランティアの養成	33
	（2）スポーツ関係団体との連携	34
	取組方針4「ととのえる」：市民ニーズに応じたスポーツ環境を提供します！	35
	（1）市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備推進	35
	（2）スポーツ施設の改修、適切な配置方針の策定	36
	（3）スポーツ施設の効率的な運営に向けた取組	37
9	計画の指標	38

資料	41
(1) スポーツ施設	41
(2) 主なスポーツ行事	44
(3) スポーツ関係団体	46
(参考) 用語解説	47
(参考) 平成27年度堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査報告書 概要版	49
(1) 調査の概要	49
(2) 運動・スポーツに対する市民の意識	50
(3) 運動・スポーツの実施状況、今後の取組意向	52
(4) 堺市における今後のスポーツ推進に向けた市民ニーズ	61
(5) 自由意見回答	65

1 計画策定の趣旨

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらし、さらに、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものであり、ひいては医療費等の縮減の効果が期待できるものです。

現代社会においては、生活の利便性の向上や生活様式の変化により、日常生活の中で身体を動かす機会の減少を招いています。また、本市では高齢者（65歳以上）の占める人口の割合が、全人口の25%を超えるなど、すでに4人に1人が高齢者となり（平成26年9月末時点の人口推計）、健康寿命の延伸がクローズアップされています。

このような状況の中、子どもから高齢者の方まで幅広い世代の市民が、生涯にわたりスポーツ活動に親しみ、豊かなスポーツライフを送ることは大きな意義があります。

また、平成23年に施行されたスポーツ基本法においては、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であるとの考えに立った新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示し、国、地方公共団体、スポーツ関係団体をはじめとする関係者との協働によって、その基本理念の実現を図ることを規定しています。

このようなことを踏まえ、本市では、平成24年9月に堺市スポーツ推進計画を策定し、市民の誰もが「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しむ環境を提供し、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまち「スポーツタウン・堺」の実現をめざし、各種施策に取り組んできました。

同計画は平成27年度に計画期間を満了しましたが、「スポーツタウン・堺」は本市が普遍的にめざすべき姿であり、その実現に向けて今後も種々のスポーツ施策に取り組んでいく必要があります。

そこで、本市のめざす姿として「スポーツタウン・堺」を今後も継承し、計画に基づく取組の評価や現在のスポーツを取り巻く状況、課題を整理したうえで、引き続きその実現に取り組む「第2次堺市スポーツ推進計画」を策定します。



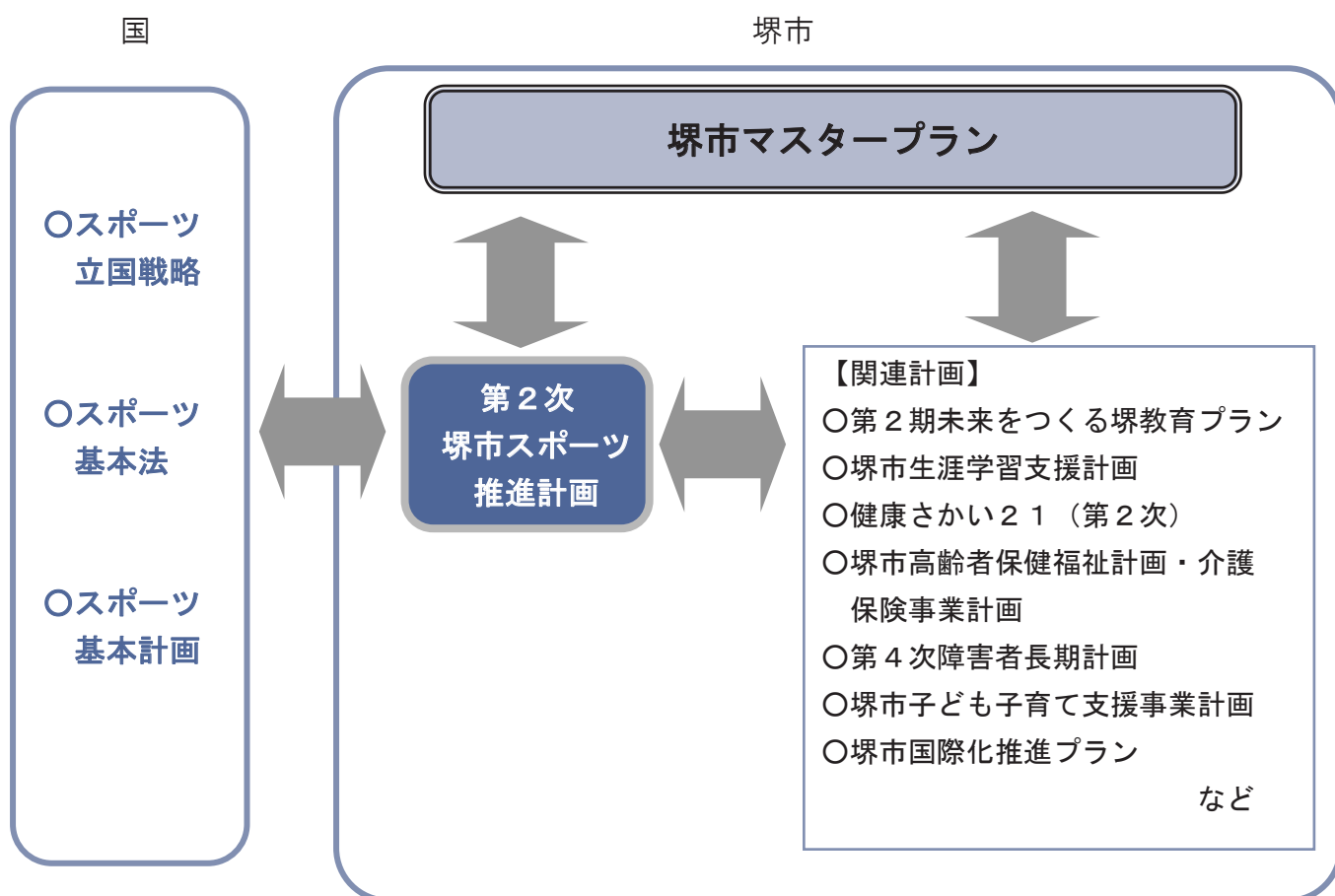
堺市民オリンピック

2 計画の位置づけ

本計画は、国が平成22年に策定した「スポーツ立国戦略」及び平成23年に施行した「スポーツ基本法」並びに同法に基づき平成24年に策定した「スポーツ基本計画」の趣旨及び方向性を踏まえ、本市の実情に照らし合わせて策定したものです。

なお、本計画の策定にあたっては、本市の上位計画である「堺市マスタープラン」及び本市の他の分野別計画と整合性を図っています。

【概念図】



3 計画期間

本計画の計画期間は平成28年4月1日から平成33年3月31日までとします。

なお、当該期間中において社会情勢等や進捗状況の変化により、本計画の見直しが必要となった場合は、適宜対応します。

4 前計画の総括

(1) 重点取組項目ごとの取組と評価

前計画では、「生涯スポーツの推進」「青少年スポーツの推進」「高齢者・障害者スポーツの推進」「地域スポーツの推進」の4つの柱を立て、「スポーツへの関心の向上」「スポーツ機会の提供」「スポーツを支える体制の整備」「スポーツ施設の整備」の4つを重点取組項目とし、とりわけスポーツを身近に感じてもらえるような各種スポーツ推進施策を実施してきました。

重点取組項目1 スポーツへの関心の向上

堺市民オリンピックに例年、選手や応援団等1万人が参加することをはじめとして、各種スポーツ大会やイベントの開催が、市民のスポーツを通じた健康づくりや生涯スポーツに取り組むきっかけとなっています。

また、平成25年からセレッソ大阪堺レディースがJ-GREEN堺を中心にホームゲームを開催し、さらに平成26年から本市がセレッソ大阪のホームタウンに加わるなど、これまで連携を強化してきた堺ブレイザーズやオリックス・バファローズと合わせて、トップレベルチームを身近に感じ、スポーツの魅力を広く発信できるよう様々な事業で連携しました。

重点取組項目2 スポーツ機会の提供

スポーツに興味関心のない人向けに「スポーツ実施啓発パンフレット」を作成し、施設など従来の配布先に加えて、医師会など新たな配布先を開拓し、各種教室を開催することにより、ウォーキングや体操などの気軽にできるスポーツの普及・啓発を図りました。

また、トップレベルチーム等との連携により、初心者向けをはじめ競技力向上を目的とした各種スポーツ教室やイベントを開催し、スポーツに親しむ機会を充実させました。

青少年のスポーツ推進については、外部指導者派遣を通じて、指導者不足等により運営に支障をきたしている学校及び部活動に魅力と活気を与え、運動部活動の推進などに取り組みました。

高齢者向けのスポーツ教室は、健康寿命の延伸や介護予防など、シニア層のニーズに合わせた内容で開催しました。

障害者スポーツでは、堺市立健康福祉プラザで、各利用者に合ったきめ細やかな指導・コミュニケーション、安全かつ安心して快適に施設を利用できる環境の維持など、新たな利用者の確保や利用定着を図っています。

重点取組項目3 スポーツを支える体制の整備

総合型地域スポーツクラブとして活動している団体は、市内に1団体ですが、スポーツ推進委員を対象とした研修会の開催を契機に、一部の地域で設立に向け準備を進めています。現在も、課題の解決や地域住民への協力、理解を得るべく、本市及び大阪府広域スポーツセンターが連携し、支援、育成を行っています。

スポーツ推進委員は、地域スポーツを支える中心的役割を担っており、堺市民オリンピックを始め、各校区のスポーツ大会などでその能力を発揮しています。

また、地域や職場で活躍する人材を育成するため、「堺市地域スポーツ指導者養成講座」を開講し、受講者を「堺市スポーツ指導者」として認定しています。本講座修了者のうち希望者が、「堺

市ボランティアスポーツ指導者会」に入会し、平成27年4月現在約90名が各種スポーツイベント等で活動しています。

重点取組項目4 スポーツ施設の整備

J-GREEN堺では開設以来、全国規模の大会が開催されるなど、平成26年度には当初の想定来場者数50万人を大きく上回る約70万人の利用がありました。更なる利用枠拡大を図るため、人工芝フィールドを2面増設しました。

また、(仮称)原池公園野球場基本計画案及び大浜体育館建替(武道館併設)整備基本構想を策定しました。

その他既存施設では、安全・安心・快適なスポーツ環境の提供のため、必要性の高いところから計画的に改修を実施しました。

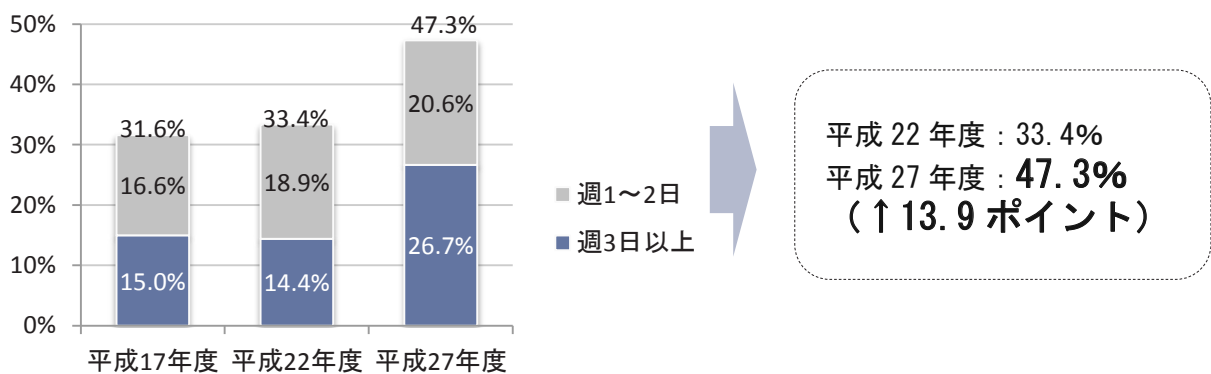
(2) 前計画の指標

前計画では、「20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率」を平成27年度末までに50%以上とすること及び「小中学生の体力合計点」を平成27年度末までに全国平均値とすることを目標として取り組んできました。

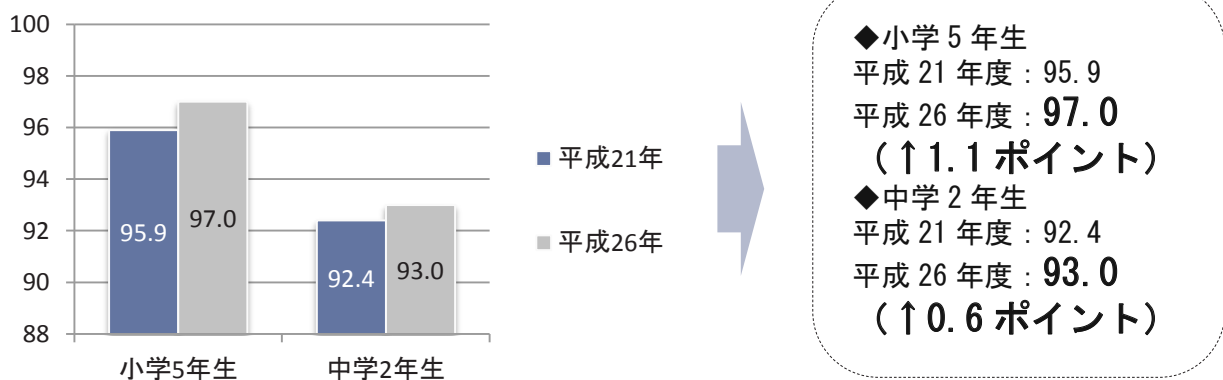
スポーツ実施率については、平成22年度の33.4%から平成27年度調査では47.3%となり、目標の50%には届かないものの13.9ポイント上昇しました。これは、ウォーキングなど気軽に取り組めるスポーツを中心に関係団体と連携し啓発を行った結果、それらのスポーツを実施した人が増えたことが大きな要因となっていると考えられます。

体力テストの平均値については、指標の対象である小学5年生と中学2年生が平成21年度から平成26年度にかけて、それぞれ95.9から97.0、92.4から93.0に上昇しました。全国平均を下回るものの小中学生ともに上昇傾向にあるのは、体育の授業の充実や運動部活動の推進に取り組んだ結果であると考えられます。

① 20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率 (平成27年度目標値：50%以上)



② 小中学生の体力テストにおける体力合計点の全国平均との比較値 (平成27年度目標値：100(全国平均))



5 現状（課題）と今後の方向性

スポーツと健康に関する市民の意識や実践状況、施策ニーズ等を把握し、今後のスポーツ推進施策の方向性を考える基礎資料とするため、「堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査（以下、「意識調査」という）」を平成27年度に実施しました。

また、子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることなどを目的に、小中学生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（以下、「体力調査」という）」も全国で実施されています。これらの調査結果をもとに、「スポーツタウン・堺」の実現に向けて、「する」「みる」「ささえる」「ととのえる」の4つの視点から、今後の方向性を決めました。

「する」

- ・ 気軽にスポーツができる機会の提供
- ・ 体育の授業の充実と運動部活動の推進

「みる」

- ・ 国際大会やトップレベルチーム等を通じたスポーツの魅力発信
- ・ スポーツを通じた本市のPR、地域の活性化

「スポーツタウン・堺」の実現

誰もが「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しむ環境を提供し、スポーツを通じて明るく元気で活力あるまちの実現をめざす

「ささえる」

- ・ ニーズに即した指導者の養成・支援
- ・ ボランティア活動の啓発情報発信

「ととのえる」

- ・ スポーツ施設の充実と効果的な管理運営
- ・ 質の高いスポーツ関連情報の提供

(1) 「する」

スポーツの推進は、市民の健康づくりや体力づくりのみならず、高齢者や障害者の生きがいづくりや社会参加のきっかけづくりにも寄与するものです。

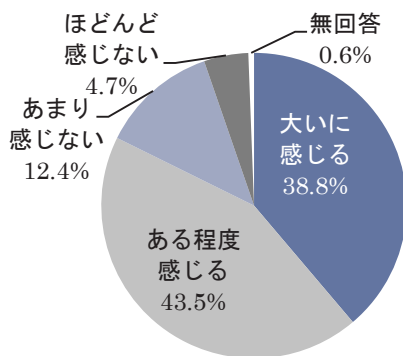
また、スポーツは、未来を拓く青少年の体力向上をはじめ、協調性や規範意識等の社会性の涵養等、青少年の心身の健全育成においても大切なものです。

しかしながら、意識調査によると、普段運動不足と感じている人は8割を超えています(図1)。

運動やスポーツをしなかった理由は、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから」が最も多く、次いで「機会がなかったから」、「年をとったから」と続きます(図2)。普段運動不足を感じている人のうち約7割の人が今後、運動やスポーツをしたいと考えています(図3)。始めてみようと思うきっかけとしては、「安価に実施できるのであれば」が最も多く、次いで「近場にスポーツができる場所があれば」「多種多様なスポーツ教室があれば」「時間の余裕があれば」と続きます。スポーツをもっと推進させるために今後注力すべきこととしては、「年齢や体力などに応じてスポーツができる場の提供」が最も求められています。

(図1)

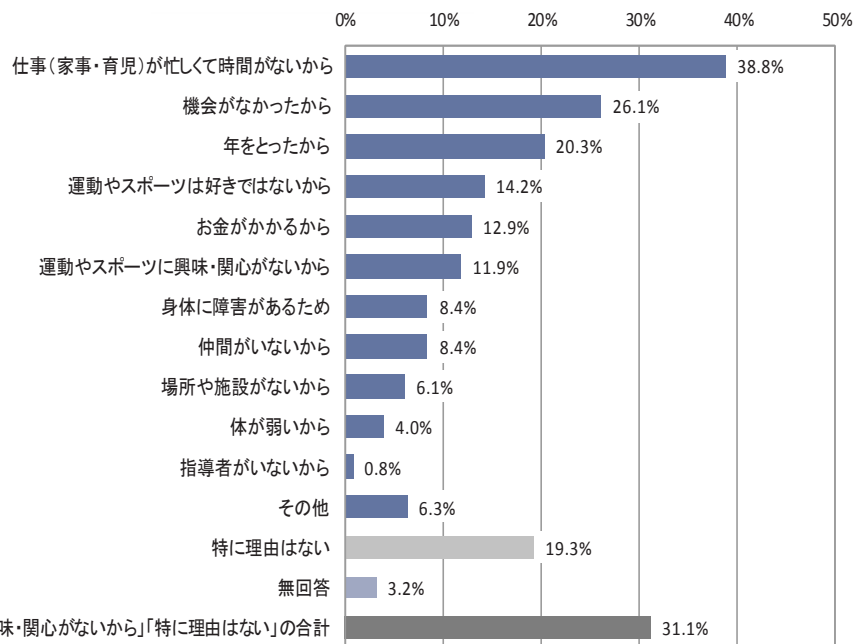
普段の運動不足度



(図2)

運動やスポーツをしなかった理由

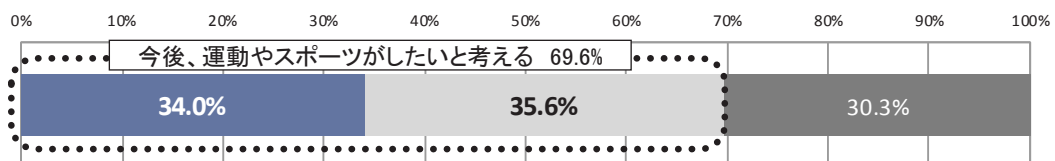
(N=379)



(図3)

今後の運動やスポーツの実施についての意向 (運動をしていない人)

(N=379)

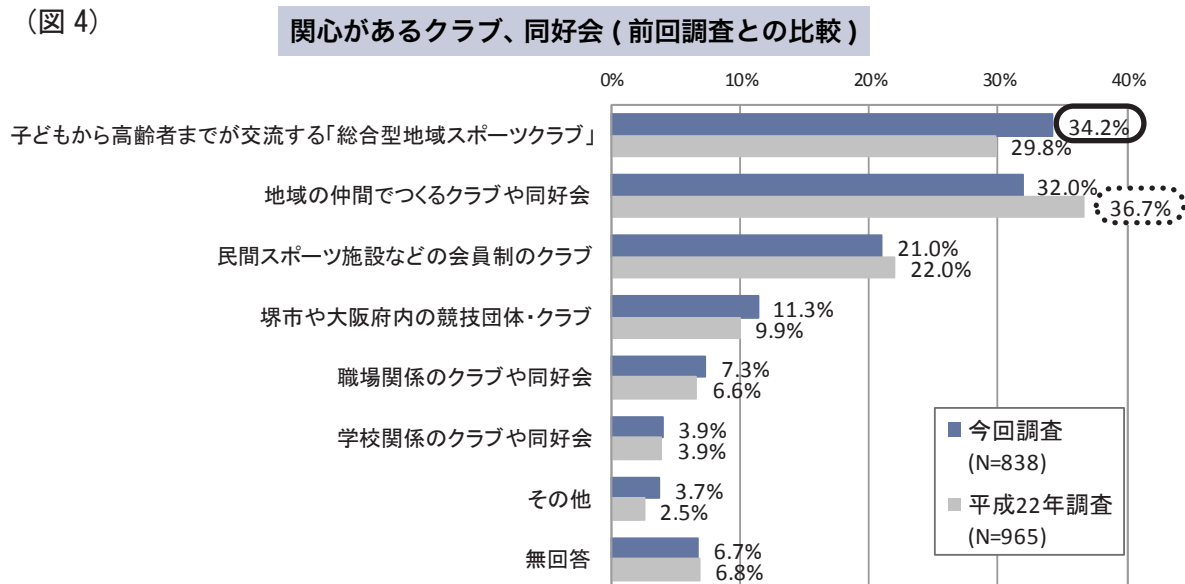


■ 運動やスポーツをしたい、または新たに始めたい ■ 運動やスポーツはしたいと思うが、今後もできないと思う ■ その他、無回答

今後行いたい運動やスポーツは、「散歩、ウォーキング」が最も多く、次いで、「筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動」、「水泳、水中歩行、アクアビクス」、「ハイキング、登山、クライミング」、「ジョギング、ランニング」が多くなっています。さらに、意識調査に回答した人の半数は、好きな運動やスポーツに関するクラブ、同好会などに関心があると答えています。関心のあるクラブ、同好会は、子どもから高齢者までが交流する「総合型地域スポーツクラブ」が最も多くなっています(図4)。

これらのことから、多くの人気が軽に組みめる種目を中心に、それぞれの生活環境に応じたスポーツ機会を提供することが、前計画に引き続き重要となります。提供する場としては、子どもから高齢者まで、様々な種目を、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される「総合型地域スポーツクラブ」の活用が求められています。

(図4)



一方、体力調査によると、小中学生で、運動することが「好き」と回答した割合は男女とも全国平均に比べ低くなっています(図5)。

体育の授業が楽しいと答えた小中学生は、小学5年生の男子では、ほぼ全国平均となっているものの全体的に全国平均を下回っています。

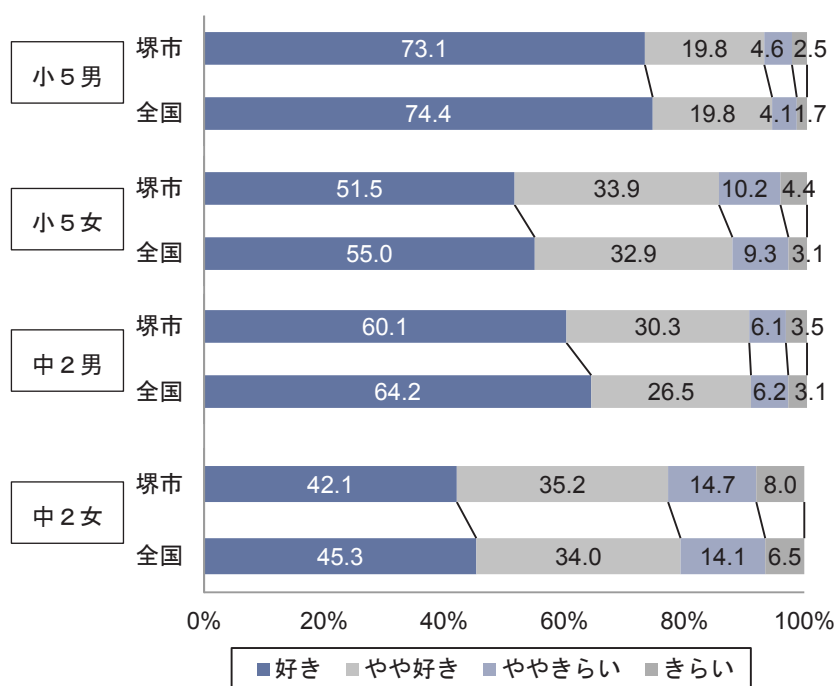
1週間の総運動時間については、特に中学2年生の女子では運動する生徒と運動しない生徒の二極化が見られ、運動時間が60分未満の生徒の割合が高くなっています。

また、運動部や地域のスポーツクラブに所属している割合は、全国平均に比べ中学生の男女とも低くなっています(図6)。

これらのことから、体育の授業で運動に自発的に取り組める姿勢を養うとともに、トップレベルチームと連携したスポーツ教室などにより、スポーツの魅力を感じられる機会を提供していくことが求められます。また、スポーツを継続して取り組める場として、運動部活動を推進する必要があります。

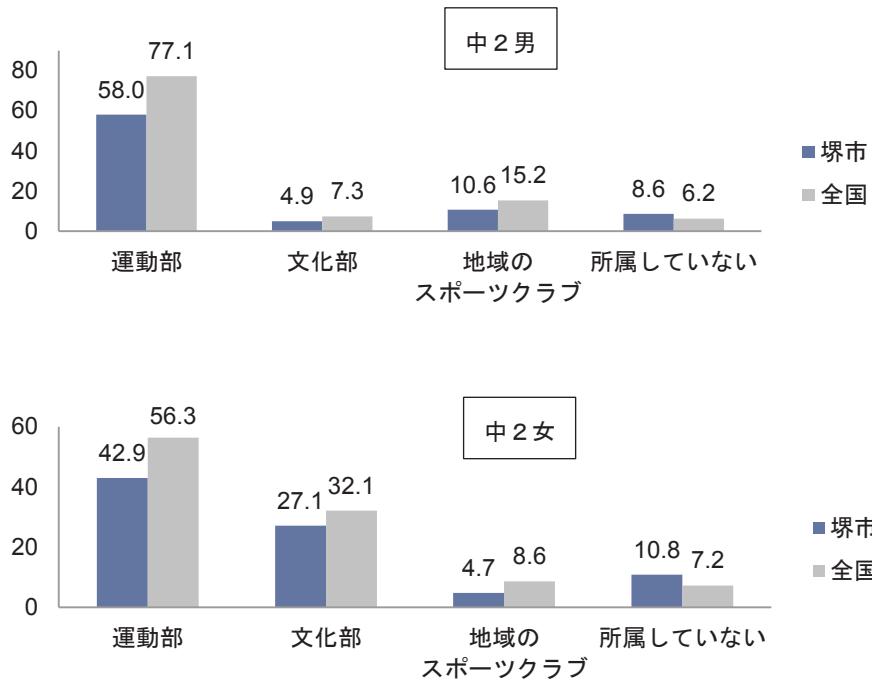
(図5)

運動することは好きか



(図 6)

部活動やクラブへの所属状況



【今後の方向性】

- ・ ライフスタイルやライフステージに応じたスポーツ機会の提供
- ・ 気軽なスポーツの推進
- ・ 総合型地域スポーツクラブの創設支援
- ・ 体育の授業の充実
- ・ 運動部活動の推進

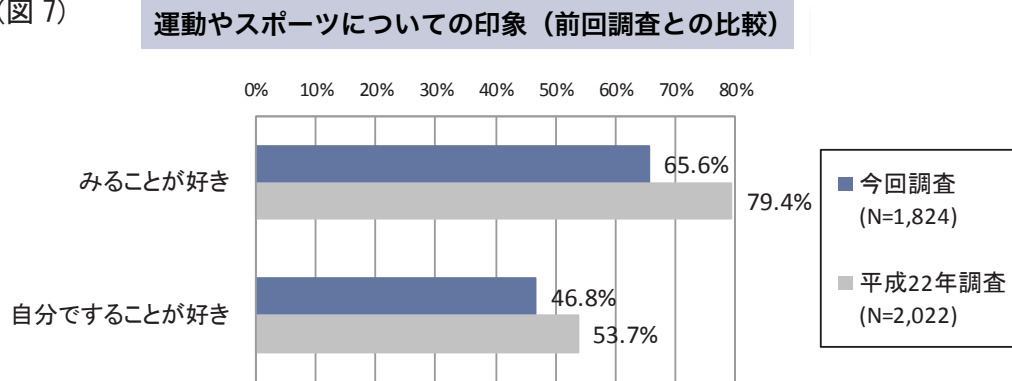
(2) 「みる」

スポーツを観戦することで、幅広い世代の市民がスポーツの楽しさを知り、興味関心を持つことで、スポーツへの参加意欲の向上につながります。また、たくさんの方が集まるスポーツ大会やイベントは、人の交流を促し、地域の活性化にもつながります。

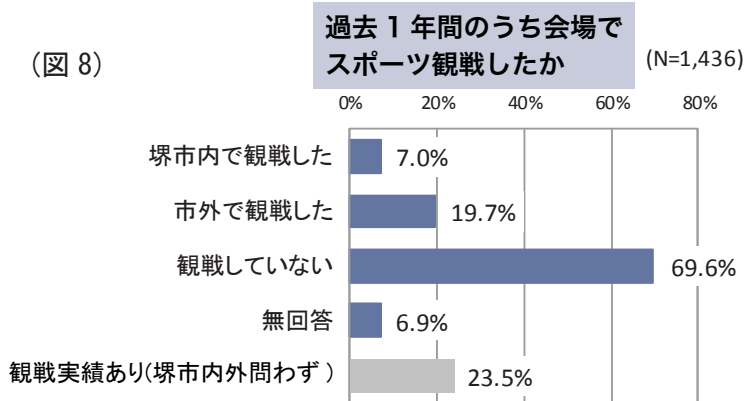
しかし、意識調査によると、スポーツを「みるのが好き」と回答した人は、今回調査では平成22年度調査より減少しています。また、平成22年度調査で「自分ですることが好き」と回答した人が今回調査では平成22年度調査より減少しており、一般的に運動・スポーツが嫌いまたは興味・関心のない人が増えているという傾向が見られます(図7)。「みるのが好き」と回答した人の中でも、最近1年間にスポーツを試合会場で観戦した実績がある人は少なくなっています(図8)。

本市には、「堺ブレイザーズ(バレーボール)」や「セレッソ大阪(サッカー)」など、堺市を拠点として活躍するトップレベルのスポーツチームがありますが、これらのチームの印象は、「魅力を感じる」と思う人が5割を超えています(図9)。トップレベルチームに期待することとしては、「優待観戦イベントの実施」や「市民向けふれあいイベントの充実」が多くなっています。

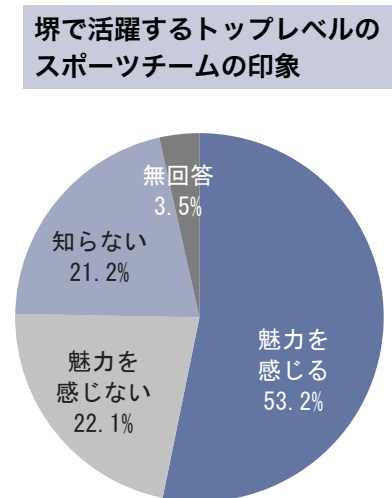
(図7)



(図8)



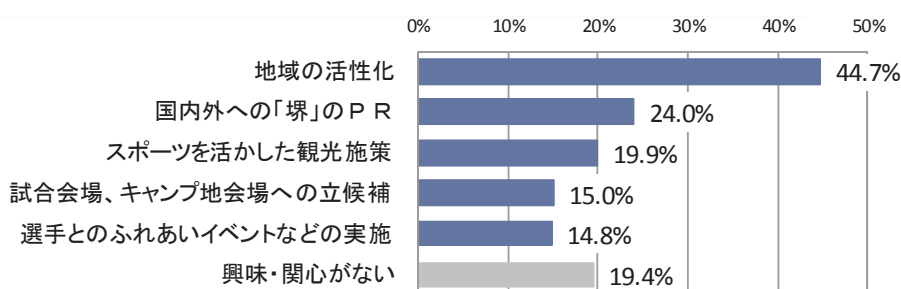
(図9)



また、2019年に「ラグビーワールドカップ2019日本大会」が、2020年には「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が我が国で開催され、2021年には生涯スポーツの国際競技大会である「関西ワールドマスターズゲームズ2021」が関西地域で開催されます。これらの大会の開催にあたり、行政などに期待するものとしては、「地域の活性化」が4割を超えています(図10)。

今後の方向性としては、トップレベルの試合の観戦や選手との交流の機会をつくり、スポーツの魅力を発信するとともに、スポーツを通じて本市をPRし、地域を活性化することが必要です。

(図10) 「ラグビーワールドカップ2019」「2020年東京オリンピック・パラリンピック」について、行政などに期待すること(回答の多かった6項目) (N=1,824)



【今後の方向性】

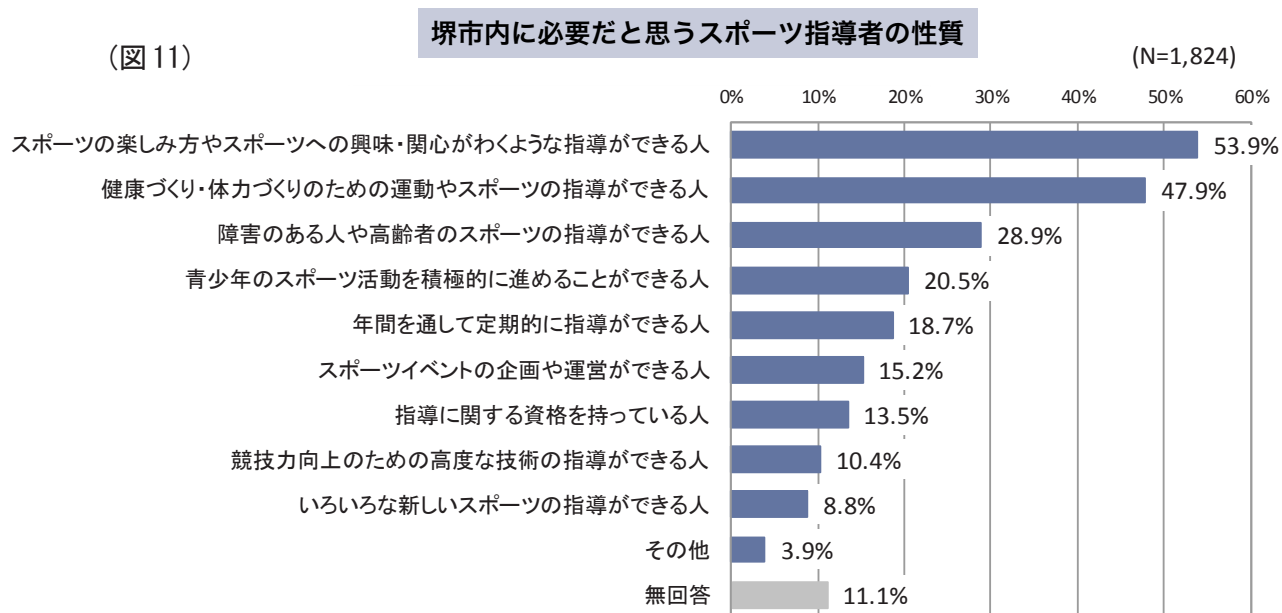
- ・国際大会やトップレベルチーム等を通じたスポーツの魅力発信、スポーツを観戦する機会の提供
- ・スポーツを通じた本市のPR強化、地域の活性化

(3) 「ささえる」

スポーツを継続的かつ効果的に実践するには、それを支える人材や組織が重要です。また、スポーツ大会やイベントを開催するには、大会運営のノウハウや専門的技術、知識のほか、大勢のボランティアや地域の参加者の協力が不可欠です。

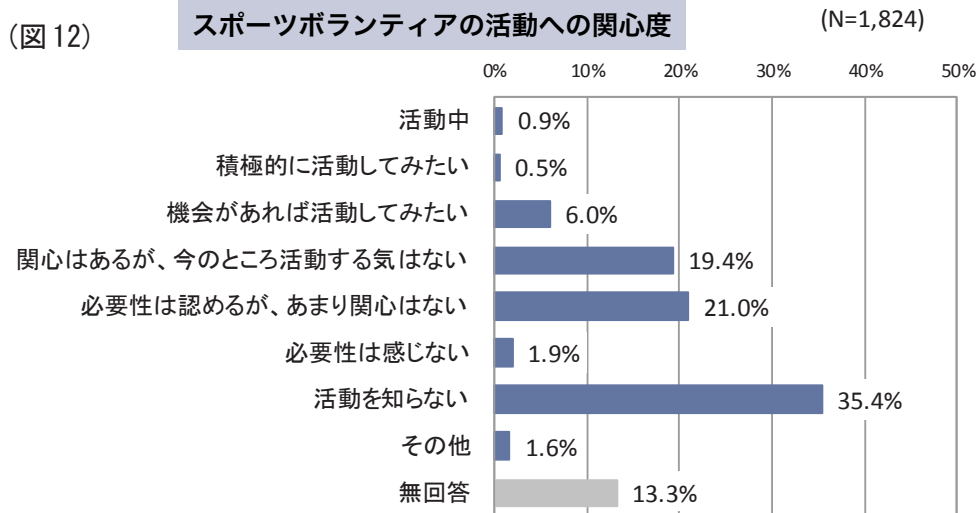
今後のスポーツ推進に向けて必要とされている指導者は、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」と「健康づくり・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」の2項目が他よりも突出して多くなっています(図11)。今後は、これらのニーズに即した指導者を養成し支援していく必要があります。

(図11)



また、市民のスポーツの推進を図っていくためには、スポーツボランティアの活動が重要となりますが、その活動の認知度及び関心度は、「活動を知らない」が最も多く、次いで「必要性は認めるが、あまり関心はない」、「関心はあるが、今のところ活動する気はない」と続きます。一方、スポーツボランティアとして活動中又は活動してみたいと回答した人は少なく、スポーツボランティアの活動がまだまだ浸透していないことがうかがえます(図12)。

関心がある活動の内容としては、「大会・イベントの運営・補助」が最も多くなっています。



【今後の方向性】

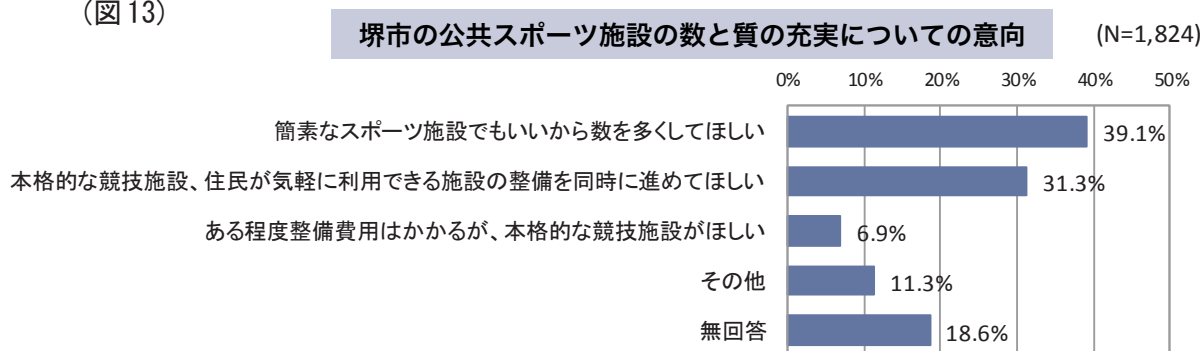
- ・ ニーズに即した指導者の養成・支援
- ・ ボランティア活動の啓発情報発信

(4) 「ととのえる」

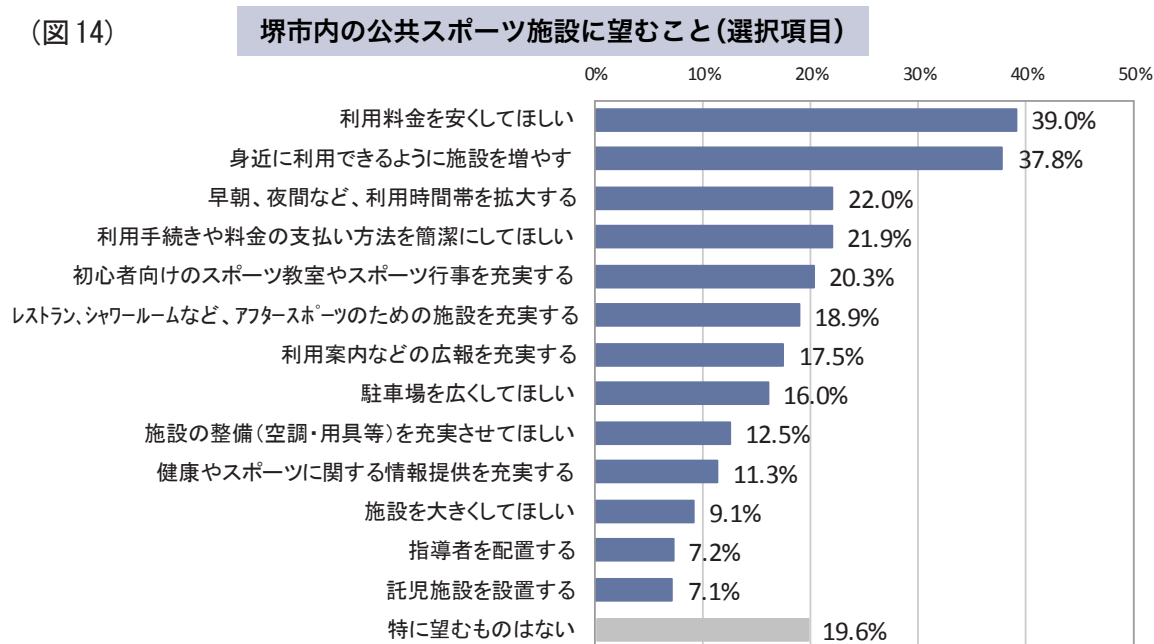
スポーツに積極的に取り組める環境づくりには、快適にスポーツを楽しむための場所の整備と、やりたいスポーツが行える機会を簡単に知ることができるための情報の整理が必要です。

場所の整備については、意識調査によると、この1年間に何らかの運動やスポーツを行った人のうち、施設や場所の確保に苦勞した人が2割近くいます。そして、堺市の公共スポーツ施設（学校体育施設は除く）の数と質について、「簡素なスポーツ施設でもいいから数を多くしてほしい」と「本格的な競技施設、住民が気軽に利用できる施設の整備を同時に進めてほしい」が多くなっています（図13）。堺市内の公共スポーツ施設に望むことは、「利用料金を安くしてほしい」と「身近に利用できるように施設を増やす」の2項目が他よりも突出して多くなっています（図14）。これらのニーズに応えられる施設を整備するとともに、施設を効果的に運営することが求められています。

(図13)

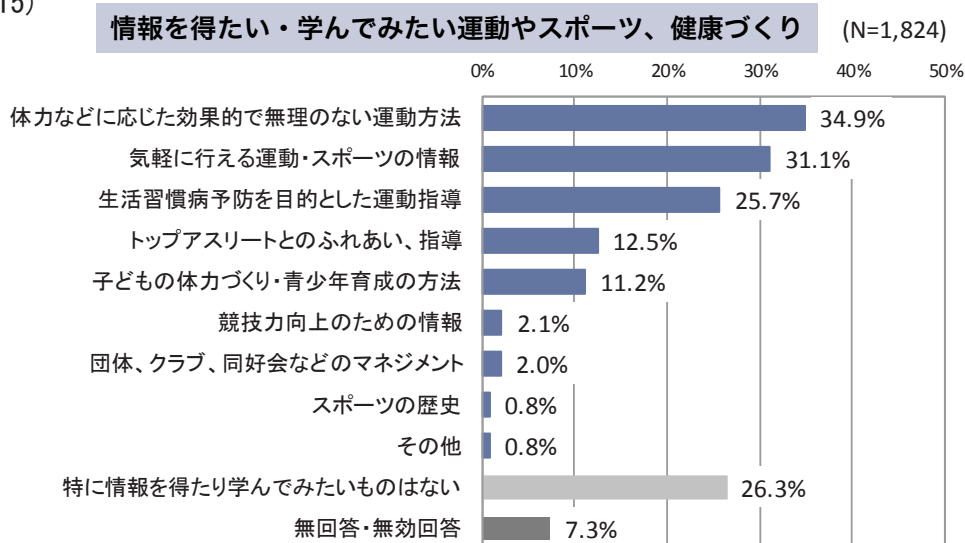


(図14)



情報の整理については、意識調査によると運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源として、「広報さかいや行政のチラシ・パンフレット」が最も多く、次いで「インターネット」、「テレビ・ラジオなど」、「新聞や雑誌、本など」、「家族や知人・友人からの情報」と続きます。運動やスポーツ、健康づくりに関して情報を得たい・学んでみたい内容は、「体力などに応じた効果的で無理のない運動方法」が最も多く、次いで「気軽に行える運動・スポーツの情報」、「生活習慣病予防を目的とした運動指導」と続きます(図15)。今後、市民が知りたいスポーツに関する情報を、広報紙やインターネットなど多様な媒体を通じて分かりやすく伝えていくことが重要となります。

(図15)



【今後の方向性】

- ・ スポーツ施設の充実と効果的な管理運営の促進
- ・ 多様な媒体による質の高いスポーツ関連情報の提供

6 スポーツを取り巻く現況

○国際的なスポーツイベントの開催

日本国内では、今後5年間のうちに世界3大スポーツイベントの一つとされるラグビーワールドカップ2019日本大会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。さらに、2021年の5月には、生涯スポーツの国際総合競技大会である関西ワールドマスターズゲームズ2021が開催されます。この大会は、原則30歳以上であれば誰もが参加でき、アジアで初めて第10回記念大会として関西で開催されます。

ラグビーワールドカップ2019日本大会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会で高まったスポーツを「みる」または「ささえる」機運を、関西ワールドマスターズゲームズ2021でスポーツを「する」きっかけづくりへとつなげるため、これらの大会の一体的な推進が日本国内において図られることとなります。

また、これらの大会は、多くの人や物の交流を生み、経済に活力をもたらし、地域の活性化の機会となることが期待されています。



7 特色ある本市のスポーツ資源

○堺市民オリンピック

本市では、生涯スポーツを推進するイベントとして、昭和50年から毎年体育の日に「堺市民オリンピック」を開催しており、「堺まつり」「堺市農業祭」とともに堺三大まつりとして市民に親しまれています。

開会式典では、選手団の入場行進や、聖火入場・選手宣誓とオリンピックさながらに大きく盛り上がります。大会は、各小学校区から選出された代表選手団による対抗戦で行われ、各競技会場では、選手や観客を合わせて約1万人が集まり、熱戦を展開するとともに、勝敗を超えた市民の交流が見られます。本大会への出場をかけた地域での予選会も開催され、さらに多くの市民が様々な形で関わっています。

また、代表選手団の選出等、本大会の開催にあたっては、各校区のスポーツ推進委員の役割が必要不可欠です。堺市民オリンピックが行われたことを契機に、スポーツ推進委員を中心としたスポーツ推進組織が多くの小学校区で構成され、その組織による校区のスポーツ行事も多数開催されており、新たに堺市民オリンピック種目となった競技が校区でも取り組まれるようになるなど、地域でのスポーツ活動の推進、ひいては健康で元気に暮らすことができる「健康寿命」の延伸にも大きく寄与するイベントとなっています。

○J-GREEN堺

平成22年に堺臨海部に開設したJ-GREEN堺は、5面の天然芝フィールド、11面の人工芝フィールド、8面のフットサルフィールドのほか、サイクリングコースやウォーキングコースなどを備えた日本最大級の施設規模を有するサッカー・ナショナルトレーニングセンターであり、平成25年には、文部科学省から、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設に指定されています。

平成24年4月には、一般社団法人大阪府サッカー協会が宿泊施設「J-GREEN堺 ドリームキャンプ」を当施設内に開設したほか、平成27年には、人工芝フィールドの2面増設が行われ、更なる利便性の向上と、より一層の利用促進が図られています。

開設以来、サッカーやラグビー日本代表チームの練習をはじめ、数多くの全国規模の大会や地域における各種大会など様々な大会等を開催しており、平成26年度は目標の50万人を大きく上回る約72万人が来場されました。

また、「J-GREEN堺 ドリームキャンプ」の開設と並行して、公益財団法人日本サッカー協会が主体となり、世界に通用するサッカー選手の育成を目的とした「JFAアカデミー堺」が開校されており、全国各地から選考された女子中学生の選手が市立中学校に通いながら、宿泊施設での寮生活のもと、集中的にサッカーのトレーニングを行っています。加えて「セレッソ大阪堺レディース」が、2013年シーズンから、日本女子サッカーリーグでのホームゲームを開催しています。

このように、当施設はサッカーをはじめとするスポーツ・レクリエーション活動の推進や市民の健康づくり、青少年の健全育成を推進するほか、サッカーやラグビーの各国代表チームやクラブチームのキャンプ地誘致や全国・国際規模の大会の開催などによって、豊かなスポーツ文化を創造するスポーツ交流拠点をめざしています。

○堺ブレイザーズ

本市を拠点に全国で活躍している堺ブレイザーズは、V・プレミアリーグに所属するバレーボールチームであり、Vリーグ、V・プレミアリーグでの優勝回数は、旧日本リーグ時代と通算して17回、黒鷲旗全日本選手権大会での優勝回数が14回という輝かしい戦績をもち、これまでバレーボール日本代表に数多くの選手や監督を輩出しています。

堺ブレイザーズを運営する株式会社ブレイザーズスポーツクラブは、競技スポーツと生涯スポーツの両分野で、子どもから大人までが楽しめるスポーツクラブをめざしています。

バレーボールのほか柔道クラブを運営し、さらにはサッカーやバスケットボールなどのスポーツ教室を開催するとともに、地域に密着した活動にも積極的に取り組んでいます。

○セレッソ大阪・セレッソ大阪堺レディース

2014年シーズンから本市もホームタウンに加わったセレッソ大阪は、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟する男子プロサッカークラブであり、これまでサッカー日本代表や海外強豪クラブに数多くの選手を輩出しています。

また、セレッソ大阪の女子サッカーチームであるセレッソ大阪堺レディースは、2013年シーズンから日本女子サッカーリーグのプレナスチャレンジリーグへの昇格を機に、J-GREEN堺でホームゲームを開催しています。2015年シーズンでは、プレナスチャレンジリーグWESTで優勝し、なでしこリーグ2部昇格を果たすという輝かしい成績を残しました。

両チームともに、堺ツーデーマーチや堺まつりなど、本市のイベントへ参加し、市民がスポーツを身近に感じる機会の提供に積極的に取り組んでいます。

○学生相撲発祥の地（大浜公園相撲場）

大正8年11月、大浜で第1回全国学生相撲選手権大会が開かれました。当時の新聞に「三万の観覧者、或いは熱奮し或いは酔うが如し」と記されるくらいの熱狂ぶりでした。第64回大会から、大浜公園相撲場と両国国技館において隔年開催され、現在に至るまで幾多の好勝負を生み、名選手をその歴史に刻んできました。

大浜公園相撲場では、わんぱく相撲や実業団の相撲大会のほか、平成27年には、世界相撲選手権大会が9年ぶりに30の国と地域の参加により開催されるなど、多くのアマチュア相撲の大会が開催されています。

○自転車のまち・堺

堺市は、“自転車のまち・堺”と呼ばれています。アジアで最大規模の国際自転車ロードレース“ツアー・オブ・ジャパン”の第1ステージとしても有名です。

日本で自転車が普及し始めたのは明治の末頃からですが、当時の堺の鉄砲鍛冶たちは、機械金属の豊富な経験を生かし、自転車の修理・部品製造にあたったと言われ、現在でも堺市は、自転車および自転車部品の製造が盛んなまちです。

このように自転車は本市の歴史や産業にゆかりがあり、平成26年10月1日には自転車を大切に扱い、市民・事業者及び行政が協働して、交通ルールの遵守・マナーの向上を図るとともに安全で安心して、楽しく利用することができる自転車のまちづくりを進めるため「堺市自転車のまちづくり推進条例」を施行しています。

また、市民の自主的な活動組織である「堺 自転車のまちづくり・市民の会」が、自転車の交通ルール・マナーの啓発や、比較的安全で、快適に走れるコースを選定した「堺市自転車地図」の発行を行っています。

○（仮称）原池公園野球場

市民が質の高い環境で野球に親しめ、またレベルの高い試合などを観戦できる、本市初の本格的な野球場の整備に平成31年度の完成を目指して取り組んでいます。

開設後は、子どもたちの憧れや目標、市民の誇りの醸成等につながるよう、全国高等学校野球選手権大阪大会（高校野球大阪府夏季予選）や社会人野球公式戦、プロ野球2軍戦の開催等を予定しています。



8 取組施策

本市の現状や課題を踏まえ「スポーツタウン・堺」を実現するために、今後のスポーツを取り巻く状況に合わせ、本市の特色を効果的に活用した施策に取り組みます。

特にJ-GREEN堺を活用し、ラグビーワールドカップ2019日本大会や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスタースゲームズ2021などの国際的スポーツイベントを市民が身近に感じ、スポーツに親しめるような取組を進めます。それにより高まったスポーツ参加の機運を活かし、ウォーキングやサイクリングなど、気軽にできるスポーツの推進へとつなげます。

各施策については、「する」「みる」「ささえる」「ととのえる」の4つの視点から取組方針を立て、体系的に取り組むことにより、一体的な推進を図ります。

取組方針1「する」：スポーツをする機会を提供します！

- (1) スポーツを気軽に実施できる仕組みの充実
- (2) 市民スポーツイベントの推進
- (3) 青少年の運動習慣の確立に向けた取組
- (4) 高齢者のスポーツ活動の推進
- (5) 障害者のスポーツ活動の推進

取組方針2「みる」：スポーツを観るきっかけを創出します！

- (1) スポーツの魅力発信・情報発信
- (2) スポーツを通じた本市の魅力発信

取組方針3「ささえる」：スポーツ活動を支える体制づくりを進めます！

- (1) スポーツ指導者や市民ボランティアの養成
- (2) スポーツ関係団体との連携

取組方針4「ととのえる」：市民ニーズに応じたスポーツ環境を提供します！

- (1) 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備推進
- (2) スポーツ施設の改修、適切な配置方針の策定
- (3) スポーツ施設の効率的な運営に向けた取組

取組方針1「する」：スポーツをする機会を提供します！

日常生活の中で誰もが気軽に親しむことができるスポーツ事業等を推進するとともに、地域に密着したスポーツクラブや自主活動グループの活動を支援し、幅広い世代の市民がそれぞれの興味や適性、年齢、障害の有無やその程度等にかかわらず、継続的にスポーツに取り組める環境や機会づくりを推進します。

このほか、青少年を対象とした各種の体力向上プログラム等を提供するとともに、運動部活動等に関する取組の充実や、本市のスポーツ関係団体と連携した支援策の推進により、青少年の体力向上に向けて取り組みます。

(1) スポーツを気軽に実施できる仕組みの充実

身近な場所で気軽に取り組むことができるスポーツを推奨し、より多くの市民がスポーツを始める機会の充実を図ります。

○総合型地域スポーツクラブの創設支援【継続】

大阪府広域スポーツセンターや大学等と連携を図り、総合型地域スポーツクラブの創設を支援します。また、クラブ創設に必要な知識を習得するための講習会等への参加を促すとともに、啓発用パンフレットを発行し、より多くの市民への周知啓発に取り組みます。

○ライフステージに応じたスポーツ教室の開催【継続】

幼児向け教室をはじめ小中学生及び高校生向けの教室や親子で参加できる教室、高齢者向けの教室等幅広い種目やメニューを取り揃え、ライフステージに応じたスポーツ教室を実施します。

また、生活習慣病予防や介護予防を目的とした体操教室を開催し、いろいろな運動を体験する機会を提供します。

教室事業の実施にあたっては、インセンティブを活用した事業などで参加促進を図るほか、これまで実施した教室参加者へのアンケート結果などを踏まえ、利用者のライフスタイルやニーズに沿った事業を展開します。

○ニュースポーツの普及促進【継続】

啓発セミナーや「ニュースポーツガイドブック」などのツールを活用し、各々のレベルに合わせて気軽に楽しむことができるニュースポーツを普及します。普及にあたっては、スポーツ推進委員や堺市ボランティアスポーツ指導者会に所属する指導者（以下、「ボランティアスポーツ指導者」という）等と連携を図ります。また、利用希望者に対してニュースポーツの用具の貸出しを各体育館で行うとともに、利用者ニーズの把握に努めます。

○気軽なスポーツの推進【重点】【拡充】

ウォーキングや体操などを本市のホームページや体育館、スポーツ推進委員等を通じて周知・啓発し、地域や職場での普及・実施に取り組みます。

また、本市の伝統産業のひとつで、環境負荷の少ない乗り物でもある自転車による運動を推奨するため、サイクリングコースの活用や、日常生活に自転車利用を取り入れる啓発を行います。

○全国大会等出場奨励制度【継続】

市民のスポーツ活動の推進及びアマチュアスポーツの普及を図るため、スポーツの全国大会等に出場する市民に対し、大会出場奨励金を交付します。

○自主活動グループの育成・支援【継続】

運動教室等の参加者を中心に作られた自主活動グループに健康運動指導員を派遣し、地域の自主活動を支援します。また、ネットワーク定例会を開催し、自主活動グループ同士の交流を推進します。

○体力の定期測定の推進【継続】

継続的に自身の健康状態を知ることを通じて健康づくりへの関心を高めるため、各体育館において定期体力測定日を設けます。

○運動中の事故防止の啓発【継続】

過度な運動によるケガ・疾病のリスクについての認識を広め、ライフステージ・健康状態に応じて、健康づくりのために有効な活動の基準に則した身体活動量の周知・啓発を行います。身近な場所で気軽に取り組むことができるスポーツを推奨し、より多くの市民がスポーツを始める機会の充実を図ります。

(2) 市民スポーツイベントの推進

市民のスポーツを通じた健康づくりへの意識を高め、生涯を通じてスポーツに取り組むきっかけとなることをめざした市民参加型スポーツ大会等を開催します。

また、市民がスポーツを身近に感じ、多くの人を楽しめる仕組みづくりとして各種スポーツイベントの推進に取り組みます。

○市民参加型スポーツ大会の開催・支援【重点】【継続】

堺市民オリンピック等の広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。また、より多くの市民がスポーツに親しむ機会をつくるために、泉州国際市民マラソンや堺ツーデーマーチ等、スポーツと併せて堺の歴史・文化にも触れることができる大会やイベントを開催します。大会の開催にあたっては、市内を中心に大会PR活動を強化し、市内参加者の増加をめざします。

スポーツ関係団体等が主催する堺市民マラソンや堺シティマラソン等の各種スポーツイベントについては、主催団体等と連携して市民の参加を促進します。

○関西ワールドマスタースゲームズ2021の開催【重点】【新規】

平成33年5月に関西一円で開催される生涯スポーツの国際総合競技大会である関西ワールドマスタースゲームズ2021の競技の一部を本市で開催し、2020年東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップで高まった市民のスポーツへの関心を、スポーツを「する」機運の醸成につなげます。

(3) 青少年の運動習慣の確立に向けた取組

青少年の豊かな心と健やかな体を育むため、学校教育活動のなかでスポーツに親しむ機会の充実を図り、運動部活動の指導体制や環境の整備を進めるなど、学校体育におけるスポーツ行事の活性化を通じて、本市の青少年の運動習慣の確立に努めます。

また、スポーツ関係団体と連携し、心身の健全育成を支援するほか、授業等で武道に関心を持った青少年等が、継続して武道に取り組むことができる環境の整備を推進します。

○青少年向けスポーツ教室等の充実【重点】【継続】

本市では、運動習慣が身に付いていない青少年の比率が全国平均より高いことなどから、運動の習慣化につなげていくためのきっかけとして、運動や遊びを中心としたスポーツ教室やスポーツ大会を実施します。実施にあたっては、アンケート調査等を行い、ニーズに合った種目及び内容で開催できるように努めます。

また、仲間とともに踊ったり、自己を表現したりすることで楽しさや喜びを味わうとともに、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることができるダンスの普及促進を図ります。

さらに、堺ブレイザーズ、セレッソ大阪、セレッソ大阪堺レディース、オリックス・バファローズなどのトップレベルチームと連携し、スポーツ教室やイベントの開催、青少年をはじめとする市民にトップレベルの選手と触れ合う機会を提供します。

○スポーツ少年団活動の充実【継続】

少子化による団員数減少の中、青少年がスポーツを身近なところで多種多様に行えるよう、スポーツ少年団との連携を強化します。

中央大会、ブレイザーズカップスポーツ大会等の開催を通じて、スポーツ活動を通じて青少年の心身の健全育成を図ります。

○「JFAアカデミー堺」等との連携・支援【継続】

全国から選考された女子中学生を対象に、集中的にサッカーのトレーニングを行い、青少年の目標となる世界に通用する選手の育成を図る「JFAアカデミー堺」の活動を支援します。

また、JFAアカデミー堺やセレッソ大阪堺レディースと連携し、女子サッカーを推進するための取組を進めます。

○体育の授業の充実【継続】

児童生徒自らが「目標を決める」「工夫する」「振り返る」場を設定できるよう、体育の授業の充実に努めます。

また、授業などを通じて、小学校の段階から「大縄を活用した運動」、「ダンス」などの友だちとともに取り組むことができる運動を普及啓発し、児童生徒が自主的に継続して取り組む態度を育成します。

○体力向上の推進【継続】

体力向上検討会議を開催し、有識者から意見聴取を行うとともに、「体力向上研究校」での実践研究の取組内容を市内全校に発信します。

また、大学や各種スポーツ団体等と連携し、運動習慣の確立につながる運動意欲の促進に努めます。

さらに、新体力テストの検証結果をもとに、小中学校が作成する「体力向上プラン」の点検、指導助言及び改善指示を通して各校の取組を支援します。加えて、家庭や地域に子どもたちの体力の現状を広報し、児童の体力向上への意識を高め、地域のスポーツ行事への参加啓発等に取り組みます。

○運動部活動の推進【重点】【拡充】

運動部活動を推進するため、部活動用具等の整備を行います。

指導者不足や部員不足などにより在籍する中学校に希望する部活動がない場合に、学校を越えて部活動に参加できる拠点校を設置し、用具整備等を支援するドリームクラブ事業を実施します。

また、生徒・保護者の負担を軽減するため、全国大会・地方大会の出場時の交通費や奨励金を支給します。

さらに、各種目における専門性の高い技術指導者を各学校に派遣するなど、魅力ある部活動をめざします。

○武道の推進【継続】

武道を通じて青少年の心身の健全育成を図るため、地域の体育館等において、青少年を対象とする武道教室を開催します。また、保健体育担当教員に対する研修等を通し、学校における武道指導の充実を図ります。

○「小学校体育指導の手引」の活用【継続】

本市が学年毎に作成した「小学校体育指導の手引」を活用し、運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、運動に親しむことができる指導を行います。

(4) 高齢者のスポーツ活動の推進

健康づくりや生きがいづくり、社会参加のきっかけづくりに寄与するため、スポーツ教室・スポーツ大会の開催等、高齢者も含めた幅広い市民が、気軽にスポーツに取り組むことができる環境の整備に取り組みます。

○高齢者のニーズに応じたスポーツ教室の開催【継続】

転倒予防、体力増進、運動習慣を身につけるなどを目的とした体操を行う「げんきあっぷ教室」や、肩こり予防の体操を取り入れた教室など、健康づくりや生きがいづくりにつながるスポーツ教室を開催します。

また、運動指導と併せて、地域包括支援センター等と連携し、低栄養の改善、口腔機能の向上、認知症予防などの内容も取り入れた教室も開催します。

○全国健康福祉祭（ねんりんピック）本大会への選手団派遣【継続】

堺市選手団を派遣し、他府県の選手や開催地関係者等と交流することで、高齢者スポーツを活性化させるとともに、堺市の他府県へのPRに取り組みます。

○堺コッカラ体操の普及【新規】

無理なく体を動かせるように簡単な運動を組み合わせた体操である「堺コッカラ体操」を、介護予防の体操教室や認知症予防の「脳トレ教室」で取り組みます。また、大学との連携で生み出された堺オリジナルのこの体操を、市民を対象に指導するノウハウを学ぶ講座も開催し、普及を行っていきます。

○健康状態に応じた活動の推進と地域づくり【継続】

一人ひとりの健康状態に応じた活動を身近な地域で楽しみながら継続してできるよう、市民主体の自主活動グループについて周知し、参加者を増やします。加えて、市民協働で健康に関する意識づくりや多種多様な健康づくり活動についての啓発を実施します。

(5) 障害者のスポーツ活動の推進

一人でも多くの障害者がスポーツを楽しみながら、住み慣れた地域で生き生きと生活できるよう、身近な地域での運動・スポーツを始めるきっかけづくりや、その活動を継続できる環境整備を推進します。

また、障害者スポーツの普及拡大から競技力向上をめざす障害者まで、様々なニーズに対応できるよう、健康福祉プラザスポーツセンターが障害者スポーツ振興拠点としての専門性や機能を発揮しながら、スポーツ関係者や障害福祉関係者との連携・協力関係をさらに強化することにより、障害者スポーツ振興体制や障害者スポーツネットワークを構築します。

○健康福祉プラザスポーツセンターの機能強化【重点】【拡充】

障害者スポーツ指導者の資格を有する指導員を複数配置し、障害種別や程度等に配慮した障害者スポーツ教室、障害の有無に関わらず誰もが気軽に参加できる交流事業・イベント等を充実させます。

また、競技力の向上をめざす障害者には、国や大阪府との役割分担の下、競技団体や指導者等からの協力を得て、練習会や記録会等を開催し、継続的に練習できる場や当事者の交流の機会等を確保します。

さらに、小中学校、スポーツ施設、障害者施設等に指導員を派遣し、地域でのスポーツ活動の場の拡大や障害者・障害者スポーツに対する理解や関心を深めることを目的とした出張教室を開催します。

○堺市障害者スポーツ大会の開催【継続】

全国障害者スポーツ大会の堺市代表選手を選考する機会として、また、スポーツに取り組む障害者が日頃の練習の成果を発揮する機会として、より多くの障害者が本大会に参加できるよう、健康福祉プラザスポーツセンター利用者や市内の特別支援学校生徒・障害者施設利用者等への働きかけを強化します。

また、全国障害者スポーツ大会の出場対象競技種目や対象年齢等に該当しない障害者でも気軽に参加できるよう、平成25年度から取り組んでいる堺市独自のオープン競技種目を引き続き開催します。

○全国障害者スポーツ大会への選手団派遣やその他の国内・国際大会への出場【継続】

堺市選手団として各代表選手が普段の練習の成果等を十分に発揮できるよう、競技団体からの協力を得て、強化練習会を開催します。

また、本市在住の障害者が国内・国際大会で活躍しており、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、障害児及びその保護者を対象にした競技への関心を深める機会や、競技力の向上をめざす障害者への練習の機会の確保等に努めます。

○堺市障害者スポーツ・レクリエーション大会の開催【継続】

堺市障害者スポーツ・レクリエーション大会については、堺市ボランティアスポーツ指導者会をはじめ、障害者団体等が協力して長年にわたり開催しており、今後は更なる大会の充実や、身近な地域での新たなスポーツ・レクリエーションの機会の拡大等を図ります。

○障害者スポーツに関する情報発信【重点】

運動・スポーツをしていない障害者やその家族等の支援者に対して、障害の程度や年齢、体力に自信がなくても楽しめるスポーツやスポーツの効用等をわかりやすく情報発信します。

また、障害者スポーツの魅力をスポーツ関係者や広く市民に情報発信することにより、障害者スポーツに対する理解や関心を深め、障害者スポーツの場やその活動を支える支援者・指導者を拡大します。

○障害者スポーツ推進体制の整備【新規】

地域において障害者スポーツの環境を整備するため、各競技団体、スポーツ推進委員会、堺市ボランティアスポーツ指導者会、学校、社会福祉協議会、障害者団体等のスポーツ関係者や障害福祉関係者とともに、今後の障害者スポーツ振興体制のあり方等について検討します。

取組方針2「みる」：スポーツを観るきっかけを創出します！

本市は、日本最大級の施設規模を誇る「J-GREEN堺」をはじめとする様々なスポーツ施設を有し、バレーボールチームの「堺ブレイザーズ」やサッカーチームの「セレッソ大阪」、「セレッソ大阪堺レディース」などの全国トップレベルのチームが、市内に拠点を置いて活動しています。

また、「堺市民オリンピック」や「堺ツデーマーチ」などをはじめとする、市民参加型の各種スポーツ大会を開催しています。

これらの豊富なスポーツ資源を活用して、子どもから高齢者までの幅広い世代の市民が、スポーツに興味・関心を持ち、スポーツへの参加意欲を高め、スポーツの実施につながるような取組を進めます。

加えて、ラグビーワールドカップ2019日本大会や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催を契機に市民がスポーツに関心を持てるような事業に取り組みます。

(1) スポーツの魅力発信・情報発信

競技レベルの高い試合等の観戦機会の提供などによりスポーツの魅力を発信し、市民のスポーツに対する参加意欲を高めるため、トップレベルチーム等との連携による事業を推進します。

○ラグビーワールドカップ2019日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致【重点】【新規】

J-GREEN堺を活用したキャンプ地誘致など、堺ならではの素材を生かした「本物をみる」体験を通じて「やってみよう」というきっかけをつくります。

これらの大会により高まった市民のスポーツへの関心などを有益なレガシー（未来への遺産）として残すため、国や関係自治体、各種関係団体との連携の強化を図ります。

○関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催【重点】【新規】（再掲）

大規模な生涯スポーツの国際大会を身近に観戦できる機会をつくり、本市の生涯スポーツの活性化につなげます。

○（仮称）原池公園野球場での高校野球夏季予選やプロ野球2軍戦の開催【新規】

平成31年度中に供用開始予定である（仮称）原池公園野球場を活用し、高校野球夏季予選やプロ野球2軍戦等を誘致し、スポーツの新たな観戦機会を提供します。

○トップレベルチームや企業・スポーツ関係団体等との連携強化【重点】【拡充】

スポーツ推進のパートナーとして堺ブレイザーズやセレッソ大阪等のトップレベルチームや企業・スポーツ関係団体等との連携を強化し、市民優待などのイベントを通じて市民にスポーツの楽しさや魅力を伝える取組を推進します。

また、スポーツ文化の魅力を理解するきっかけとなるような市民講座等の開催に向け、本市内の大学等との連携を強化します。

(2) スポーツを通じた本市の魅力発信

全国大会や国際大会の開催及びキャンプ地の誘致等による国内外との交流を通じて、本市の魅力発信に取り組みます。

また、宿泊施設の完備及びサッカーフィールド2面の増設に伴い、更なる集客が見込まれるJ-GREEN堺や大規模スポーツイベントなどの集客効果を、まちの活性化につなげます。

○全国大会等の誘致・開催【継続】

J-GREEN堺をはじめとする各スポーツ施設の指定管理者や各競技団体、庁内関係部局等と連携するとともに、市内のスポーツ施設の情報等をホームページなどで提供し、本市の魅力発信の効果が大きい大会の誘致に取り組みます。

また、「自転車のまち・堺」や「学生相撲発祥の地」など、本市の特色に関連するスポーツ大会やイベントを通じて様々な本市の魅力のPRに取り組みます。

○トップレベルチームや企業・スポーツ関係団体等との連携強化【重点】【拡充】（再掲）

トップレベルチームや企業、スポーツ関係団体はもとより、観光関係団体等との連携を強化し、スポーツを地域の観光資源とすることで、本市の魅力を活かした特色あるまちづくりを推進します。

○ラグビーワールドカップ2019日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のキャンプ地誘致、関西ワールドマスターズゲームズ2021の開催【重点】【新規】（再掲）

海外から集まる大会参加者と市民が国際交流できる機会を創出するとともに、スポーツツーリズムを推進し、まちの活性化につなげます。また、これらの大会に向け、スポーツツーリズムの推進体制を検討します。

○「JFAアカデミー堺」との連携・支援【継続】（再掲）

「JFAアカデミー堺」と連携し、所属する選手の夢を支援することで、サッカーをはじめとするスポーツへの市民の関心向上を図るとともに、今後、さらに全国から注目される施設となるJ-GREEN堺を通じて「堺」の魅力を全国に発信します。



取組方針3「ささえる」：スポーツ活動を支える体制づくりを進めます！

スポーツ関係団体が相互に連携できる仕組みや体制づくりの支援、地域の大学との連携等、スポーツに関わる組織体制の充実を図ることにより、幅広い世代の市民がスポーツ活動を通じ、地域間・世代間において相互に交流できるような環境づくりを支援します。

また、スポーツを継続的かつ効果的に実施する人や地域を支えるための人材を育成し、大会やイベントを支えるボランティア活動の魅力や重要性を伝えます。

(1) スポーツ指導者や市民ボランティアの養成

身近な地域における市民の自主的なスポーツ活動を支援するため、豊かで明るい社会づくりに貢献するスポーツ推進委員やボランティアスポーツ指導者の養成等を通じて、地域のスポーツ指導者の養成等に取り組みます。

○スポーツ推進委員によるスポーツ推進【継続】

スポーツ推進委員に研修会等への積極的な参加を働きかけるとともに、堺市民オリンピック等を通じてより一層のスポーツ推進委員相互の交流やスキルアップを促進します。

また、校区ごと、区ごとの地域に根差した運動会や各種競技大会等のスポーツイベントの開催を推進し、スポーツ推進委員を中心とした地域コミュニティの醸成を図ります。

○障害者スポーツ指導者の養成【継続】

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会の資格認定制度のカリキュラムに沿った初級障害者スポーツ指導者講習会を開催し、障害者スポーツ指導者の養成を行います。

さらに、養成された指導者がやりがいを持って市内で活動できるよう、健康福祉プラザスポーツセンターの実施事業や地域で活動の機会を創出しながら、スキルアップ等を支援することにより、活動の活性化を図り、中級資格取得につなげます。

また、広く市民等を対象に受講者を募集し、受講者数の拡大を図るとともに、スポーツ推進委員やボランティアスポーツ指導者等に障害者スポーツ指導者資格を取得してもらえよう、積極的に障害者スポーツの魅力等を発信します。

○地域のスポーツ指導者の養成・連携【継続】

地域や職場においてスポーツ指導者として活躍してもらうことを目的とした「堺市地域スポーツ指導者養成講座」の受講者数の増加に取り組み、地域のスポーツ指導者の養成を行います。

また、「堺市地域スポーツ指導者養成講座」の修了者により組織される堺市ボランティアスポーツ指導者会と連携し、地域や職場等でのレクリエーション活動を推進します。

○「堺市健康スポーツリーダーバンク」の利用促進【継続】

堺市内の地域・学校・職場等が実施する研修会及び各種スポーツイベント等にスポーツ実技者を紹介する「堺市健康スポーツリーダーバンク」の登録者数及び利用件数の増加に取り組みます。

○大会ボランティアの育成【継続】

堺市民オリンピックや堺ツデーマーチ、関西ワールドマスタースゲームズ2021等の全市のスポーツイベントを通じ、運営ボランティアの周知及び参加促進に取り組みます。

(2) スポーツ関係団体との連携

市民がスポーツをより身近に感じ、様々なスポーツを楽しむことができるよう、公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団をはじめとするスポーツ関係団体が相互に連携し、スポーツ施策の推進体制を強化していきます。

また、大学等のもつ資源をスポーツの推進に活かし、地域と大学等が連携した市民のスポーツ活動の充実を図ります。

○公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団等との連携強化【重点】

公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団や堺体育協会等のスポーツ関係団体がスポーツの推進の中核となるよう、相互に連携の強化を図ります。

○地域の大学等との連携の推進【継続】

大学等が実施するスポーツ関連の公開講座や課外活動等と地域のスポーツ活動とのマッチングを行い、大学等のスポーツを通じた地域連携を支援し、市民のスポーツ活動の充実を図ります。

○スポーツ関係団体間の連携【継続】

堺体育協会や堺市スポーツ少年団、本市を拠点として活動するトップレベルチーム（堺ブレイザーズなど）、スポーツに関わる事業を行うNPO法人などのスポーツ関係団体間の連携をさらに強化し、各種スポーツ施策を効果的に推進します。



堺市民オリンピック（障害者スポーツ体験コーナー：ボッチャ）



堺ツデーマーチ

取組方針4「ととのえる」：市民ニーズに応じたスポーツ環境を提供します！

スポーツに気軽に取り組むことができる環境を整えるため、市民のスポーツの拠点施設として、体育館の利便性をさらに向上させるとともに、スポーツに関する市民ニーズの把握に努め、より多くの市民が、知りたい情報を容易に入手でき、安全で快適に利用できるスポーツ環境を整備し、スポーツ情報や施設の充実に向けた取組を推進します。

(1) 市民ニーズに応じたスポーツ環境の整備推進

既存のスポーツ施設等の利便性をより向上させ、質の高い情報を広く提供することで、市民がより快適にスポーツに取り組むことができる環境を整えます。

また、高校野球等の公式戦が開催可能な野球場や大浜体育館建替にあわせた武道館の整備など、市民ニーズを踏まえたスポーツ施設の整備に取り組めます。

○（仮称）原池公園野球場整備事業の推進【重点】【拡充】

本市では、野球の競技者数が多く、本市で活動するチームから全国大会出場チームやプロ野球選手を輩出するなど、野球が盛んな土壌が形成されています。

一方で、本市はもとより、大和川以南で一定規模以上の人員を収容できる野球場がなく、全国高等学校野球選手権大阪大会（高校野球大阪府夏季予選）が開催されていない状況です。

このような状況や市民ニーズ等を踏まえ、平成31年度中の完成を目標に、高校野球や社会人野球等の公式戦などが開催できる本市初の本格的な野球場の整備に取り組めます。

○大浜体育館建替（武道館併設）事業の推進【重点】【拡充】

大浜公園はもとより堺旧港など周辺環境との調和を図りながら、平成32年度中の完成をめざし、体育館の建替えに取り組めます。

また、体育館の建替えにあわせて、武道振興の拠点となる武道館を併設することで、武道に継続して親しめる環境を提供し、各種武道の振興や競技力の向上を推進します。

○（仮称）美原南運動場の整備推進【継続】

堺市・美原町合併新市建設計画に位置付けられている（仮称）美原南運動場の整備を推進します。

○堺第7-3区をはじめとする未利用地の利活用検討【継続】

堺第7-3区のスポーツ・コミュニケーションゾーンにおいて、現在のスポーツ施設等を有効活用するとともに、未利用地などの利活用について検討します。

○公共施設等のスポーツでの利活用【新規】

ウォーキングやサイクリングなどの日常的なスポーツを身近な場所で安心して行えるよう、歩道のバリアフリー化や自転車道、自転車レーンを中心とした自転車通行環境の整備に努めます。

また、多様な世代が交流し、運動やレクリエーション活動などを楽しめる公園の整備や利活用を検討します。

○学校施設開放事業の推進【継続】

子どもの健全育成、地域住民の健康維持・体力増進や地域コミュニティづくりに寄与することを目的に、小・中学校の体育施設（運動場・体育館）を学校教育に支障のない範囲においてスポーツ活動の場として子どもや地域の住民に開放します。

（２）スポーツ施設の改修、適切な配置方針の策定

市内にあるスポーツ施設の状況把握に努め、新規施設整備、施設更新、維持管理方針について、ファシリティマネジメントや中長期の財政計画、少子高齢化の進展、社会潮流の変化などの観点を踏まえるとともに、市民ニーズに対応したスポーツ施設のマネジメントの方針を策定します。

○特色を活かしたスポーツ施設の活用【新規】

これまで、各区に市民のスポーツ活動の拠点となる体育館を設置し、身近な活動の場として、グラウンドやテニスコートを計画的に整備するとともに、J-GREEN堺といった全国規模施設を整備してきました。また、今後予定されている（仮称）原池公園野球場整備や大浜体育館の建替えもあわせ、本市が有するスポーツ資源の特色や特性を活かし、大会誘致やスポーツ教室等の事業を展開し、利用促進を図るとともに、安心して安全に利用できる施設運営に努めます。

○スポーツ施設整備の方向性の検討【新規】

スポーツ施設の配置状況、施設数の現状及び市民ニーズの把握に努め、行政が担うべきスポーツ施設の領域を定め、今後の施設整備の方向性を検討します。

○計画的な維持管理及び改修方針の策定【新規】

整備から一定期間経過した施設については、吊り天井改修等の防災対策やトイレやスロープのバリアフリー化等、時代のニーズに応じた修繕、改修を計画的に行うことで安全で快適なスポーツ環境を提供します。また、J-GREEN堺の人工芝フィールドの更新計画や野球場、テニスコート等の改修方針を策定し、効果的、効率的な管理運営に取り組みます。

(3) スポーツ施設の効率的な運営に向けた取組

○市民ニーズに応じた利用形態の検討【新規】

体育館の利用時間等について、市民ニーズに的確に応えられる利用形態を検討します。

○効果的、効率的な管理運営の推進【継続】

スポーツ施設の管理運営に民間のノウハウ等を活用し、利用者サービスの向上、経費削減等を図ることを目的に、指定管理者制度を継続するとともに、PPP/PFI等による維持管理、施設更新について検討します。

○運営財源の安定的な確保の検討【新規】

安定した管理運営を図るため、広告料収入など、様々な財源確保の手法について検討し、取り組みます。

○情報環境の整備【新規】

市民がスポーツに親しみやすく、参加しやすくするため、既存の情報ツールを充実させるとともに、時流に合った情報発信ツールの拡充について検討します。また、施設、イベント、スポーツ指導者などの様々な情報について、収集、提供を行い、質の高いスポーツ関連情報を発信し、市民が意欲的にスポーツに取り組める環境の提供に努めます。



大浜体育館（幼児体操）



美原B&G海洋センター

9 計画の指標

「スポーツタウン・堺」の実現のため、「20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率」を平成32年度末までに65%以上とすること及び「小中学生の体力合計点」を平成32年度末までに全国平均値とすることを目標として取り組んでいきます。

また、4つの視点による取組を評価する指標として、それぞれ個別目標を設定します。

総合目標

- ・20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ実施率の向上

前回調査 (平成22年度)	現状 (平成27年度)	目標 (平成32年度)
33.4%	47.3% (全国平均48.9% (平成25年))	65%

- ・小中学生の体力テストにおける体力合計点の全国平均との比較値の向上

	前計画時の現状値 (平成21年度)	現状 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
小学5年生	95.9	97.0	100
中学2年生	92.4	93.0	100

個別目標

(1) 「する」

- ・総合型地域スポーツクラブ数の増加

現状 (平成27年度)	目標 (平成32年度)
1か所	5か所

- ・運動が好きな小中学生の割合の増加 ※やや好きを含む

	現状 (平成26年度)	目標 (平成32年度)
小学5年生	89.3% [全国平均91.1%]	90%
中学2年生	83.9% [全国平均85.1%]	85%

- ・げんきあつぷ教室の累計開催回数及び累計参加者数の増加

	現状 (平成25年度)	目標※ (平成29年度)
開催回数	606回	736回
参加者数	10,406人	12,500人

※平成30年度以降の目標設定については、事業の進捗状況及び介護制度の状況に応じて、適宜設定します。

- ・堺市障害者スポーツ大会の参加者数の増加

現状 (平成27年度)	目標 (平成32年度)
385人	500人

(2) 「みる」

- ・スポーツをみるのが好きな市民の割合の増加

現状（平成27年度）	目標（平成32年度）
65.6%	70%

- ・過去1年間に会場でスポーツ観戦した市民の割合の増加

現状（平成27年度）	目標（平成32年度）
23.5%	30%
〔 全国平均31.6% 〕 〔 平成26年 〕	

(3) 「ささえる」

- ・スポーツボランティアとして活動中又は活動したい市民の割合の増加

現状（平成27年度）	目標（平成32年度）
7.4%	15%
〔 全国平均14.5% 〕 〔 平成26年 〕	

(4) 「ととのえる」

- ・市内の公共スポーツ施設の利用者数の増加

現状（平成26年度）	目標（平成32年度）
3,046,010人	3,350,000人

資料

(1) スポーツ施設

本市は、平成18年4月に全国で15番目の政令指定都市となり、7つの区が設置されました。現在、各区における市民のスポーツ・レクリエーションの拠点として、市のすべての区に市立体育館を整備しています。

その他、市内には以下の施設をはじめ、テニスコートや野球場、陸上競技場、相撲場などを整備し、スポーツに関する市民の幅広いニーズへの対応を進めているところです。

○みなと堺グリーンひろば

平成16年より、堺市北西部の堺第7-3区にある「みなと堺グリーンひろば」は、軟式野球場4面、硬式野球場2面（平成21年開設）、ソフトボール場2面（平成23年開設）等を順次整備しており、市民のスポーツ・コミュニケーションの拠点となっています。

○美原総合スポーツセンター

平成21年に美原区に開設した「美原総合スポーツセンター」は、プールやトレーニング室のほか、ヨガ等のできるスタジオ、テニスコート4面、照明設備付きの多目的グラウンド1面を備えており、地域住民をはじめとする市民の健康増進に寄与しています。

○のびやか健康館

平成16年に北区に開設した「のびやか健康館」は、ごみの焼却余熱を利用したスポーツ・健康増進施設です。プール、フィットネスルーム、テニスコート、屋内フリーコート（テニスコート最大3面又はフットサルコート最大2面）を備えており、地域住民をはじめとする市民の健康増進に寄与しています。

○健康福祉プラザ

平成24年4月に堺区に開設した「健康福祉プラザ」は、体育室やプールなどのスポーツセンターのほか、市民交流センターや生活リハビリテーションセンターなどを併設しています。障害者の健康づくりや社会参加、社会復帰を支援し、地域での自立生活等を促進するための総合的かつ広域的な拠点の形成をめざします。

さらに、本市内には、大阪府が所管する施設として、野球場やテニスコートなどを備えた大泉緑地と浜寺公園、屋内プール等を備えたファインプラザ大阪（大阪府立障がい者交流促進センター）があり、市民が身近にスポーツを親しめる環境となっています。

以上のスポーツ施設のほか、市民の身近な地域でのスポーツ活動を支えるため、市立小中学校施設の開放事業を行っています。

市内スポーツ施設一覧（市・府所管分のみ）

施設の区分（種類）	スポーツ施設	
体育館・スポーツセンター 16か所	市 15か所	①大浜体育館 ②鴨谷体育館 ③初芝体育館 ④金岡公園体育館 ⑤家原大池体育館 ⑥原池公園体育館 ⑦美原体育館 ⑧美原B&G海洋センター体育館 ⑨美原総合スポーツセンター ⑩人権ふれあいセンター（スポーツ・文化交流ホール） ⑪のびやか健康館 ⑫泉ヶ丘勤労者体育センター ⑬健康福祉プラザ ⑭勤労者総合福祉センター（多目的ホール） ⑮青少年の家
	府 1か所	⑯ファインプラザ大阪
野球場 16か所28面	市 14か所 25面	①大浜公園野球場（2面） ②三宝公園野球場（2面） ③浅香山公園野球場（1面） ④鴨谷野球場（2面） ⑤初芝野球場（1面） ⑥白鷺公園野球場（1面） ⑦金岡公園野球場（3面） ⑧陶器野球場（1面） ⑨みの池野球場（2面） ⑩さつき野球場（1面） ⑪みなと堺グリーンひろば 《運動ひろば野球場（4面）硬式野球場（2面）》 ⑫晴美公園野球場（1面） ⑬茶山公園野球場（1面） ⑭庭代公園野球場（1面）
	府 2か所 3面	⑮大泉緑地野球場（1面） ⑯浜寺公園軟式野球場（2面 ^{※1} ）
サッカーフィールド 1か所16面	市	J-GREEN堺（16面）
フットサルフィールド 2か所最大10面 [※]	市	①J-GREEN堺（8面） ②のびやか健康館屋内フリーコート（最大2面 ^{※2} ）
テニスコート 15か所最大87面 [※]	市 13か所 最大53面	①大浜公園テニスコート（4面） ②土居川公園テニスコート（2面） ③荒山テニスコート（6面） ④初芝テニスコート（6面） ⑤金岡公園テニスコート（14面） ⑥陶器テニスコート（4面） ⑦多治井テニスコート（1面） ⑧みの池テニスコート（2面） ⑨さつき野テニスコート（2面） ⑩美原総合スポーツセンターテニスコート（4面） ⑪のびやか健康館グラウンド（3面） ⑫のびやか健康館屋内フリーコート（最大3面 ^{※2} ） ⑬泉ヶ丘勤労者体育センターテニスコート（2面）
	府 2か所 34面	⑭大泉緑地テニスコート（14面） ⑮浜寺公園テニスコート（20面 ^{※1} ）

施設の区分（種類）	スポーツ施設	
陸上競技場 1か所	市	金岡公園陸上競技場
相撲場 1か所	市	大浜公園相撲場
艇庫 1か所	市	美原B&G海洋センター艇庫
プール 10か所	市 8か所	【屋外プール】 ①美原B&G海洋センター第1プール ②美原B&G海洋センター第2プール ③大浜公園プール ④泉ヶ丘プール ⑤金岡公園プール 【屋内プール】 ⑥美原総合スポーツセンタープール ⑦のびやか健康館プール ⑧健康福祉プラザプール
	府 2か所	⑨浜寺公園プール※1 ⑩ファインプラザ大阪プール
スケートボード パーク 1か所	市	原池公園スケートボードパーク
アーチェリー場 2か所	府	①ファインプラザ大阪アーチェリー場 ②浜寺公園アーチェリー場※1
運動広場 17か所	市 14か所	①白鷺公園運動広場 ②多治井運動場※3 ③みなと堺グリーンひろば芝生ひろば運動場※4 ④美原総合スポーツセンター多目的グラウンド※3 ⑤スポーツ広場（J-GREEN堺） ⑥多治井自由広場 ⑦みの池自由広場 ⑧さつき野自由広場 ⑨西原公園自由広場 ⑩田園公園自由広場 ⑪御池公園運動広場 ⑫大池公園自由広場 ⑬大浜公園市民広場 ⑭青少年の家グラウンド
	府 3か所	⑮大泉緑地球技広場 （球技広場・スポーツ広場A・スポーツ広場B） ⑯浜寺公園球技広場※1 （第1球技広場・第2球技広場・ソフトボール広場） ⑰ファインプラザ大阪グラウンド

※1 浜寺公園内の施設については、一部市外も含まれます。

※2 のびやか健康館屋内フリーコートは、フットサルコート最大2面又はテニスコート最大3面となります。

※3 多治井運動場、美原総合スポーツセンター多目的グラウンドは野球場としての利用も可。

※4 みなと堺グリーンひろば芝生ひろば運動場はソフトボール場2面及び多目的広場1面があります。

(2) 主なスポーツ行事

市民のスポーツへの関心を高めることなどを目的として、本市で実施しているスポーツ行事のうち、主なものは以下の通りです。

◎堺市種目別優勝大会

昭和22年に当時「堺市民体育祭」として堺体育協会の主催で開催され、これ以降「堺市種目別優勝大会」と改称され、27種目の加盟団体が競技毎に大会を行っており、毎年約20,000人の方々が参加しています。

平成26年からは、生涯スポーツの機運を高めるため、関西マスターズスポーツフェスティバルの冠称大会として開催されています。

◎堺市スポーツ少年団中央大会

昭和50年より、堺市スポーツ少年団に登録している各種目の団体が、団員相互の交流を深めるとともに、日常の活動の成果を競い合うことによって、スポーツ少年団員としての自覚を育てることを目的に、金岡公園を主な会場として開催しています。

毎年8種目の競技大会と運動適性テストを行っています。

◎堺ツーデーマーチ

本市が政令指定都市に移行したことを記念して、平成18年からスポーツ意識及び健康意識の高揚を目的に開催されているウォーキングの全国大会で、堺市内を中心に設定された3km～35kmのコースに、毎年約4,000人の方々が参加しています。

◎堺市民マラソン

昭和46年から、市民スポーツの推進を目的として開催されている3kmと10kmのマラソン大会で、大泉緑地にて実施しており、毎年2,000人を超える方々が参加しています。

◎泉州国際市民マラソン

平成6年から、泉州地域の9市4町（堺市、高石市、和泉市、泉大津市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町）が一体となって、広域行政の推進及び泉州地域の活性化、国際化を目的として開催されているフルマラソンの大会で、浜寺公園をスタート地点として実施しており、毎年約5,000人の方々が参加しています。

◎スポーツフェスティバル in 堺

昭和59年に始まった「コミュニティ近代五種大会」を前身に、「堺市ニュースポーツ大会」、「スポーツレクリエーションフェスティバル」と名称を変えながらニュースポーツの普及と生涯スポーツの推進を目的に開催し、平成18年から現名称となり、トップアスリートを講師とする青少年スポーツ教室をあわせて行っています。青少年スポーツ教室と幅広い世代の市民を対象とするニュースポーツの大会があり、青少年スポーツ教室には毎年約400人、ニュースポーツ大会には約1,000人の方々が参加しています。

◎堺市障害者スポーツ大会

平成18年から、スポーツを通じて市民の障害者に対する理解と認識を深め、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的に、例年5月に開催されています。身体障害者（児）及び知的障害者（児）を対象とした陸上・水泳・アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボウリングの6競技の大会で、金岡公園陸上競技場をはじめとした市内の各施設で実施しており、毎年約150人の方々が参加しています。

なお、本大会は、毎年秋に開催される「全国障害者スポーツ大会」の選考会を兼ねています。

◎堺市障害者スポーツ・レクリエーション大会

昭和51年から、障害者の健康や体力の維持増進、社会への完全参加、一般市民との交流による相互理解と友好を深めることを目的に、例年11月に開催されている身体障害者（児）及び知的障害者（児）を対象とした軽スポーツを中心とした大会で、大仙公園催し広場で実施しており、毎年約1,000人の方々が参加しています。

◎堺市精神障害者地域交流運動会（ハッスル運動会）

平成元年より、精神障害者の健康づくりや体力づくり、社会への完全参加などを目的に例年10月に開催されている運動会で、毎年約500人の方々が参加しています。

◎トップレベルチームとの連携事業

平成17年から、青少年スポーツの推進及び青少年の健全育成を目的に、本市を拠点として活動する「堺ブレイザーズ」や、平成26年シーズンから本市もホームタウンに加わった「セレッソ大阪」等のトップレベルチームと連携し開催されている青少年対象の各種教室で、毎年延べ1,000人近い青少年が参加しています。

◎ツアー・オブ・ジャパン堺ステージ（国際自転車ロードレース）

平成8年から、国民の自転車安全利用の促進と自転車を通じた健全な国民生活の向上を図ることを目的に毎年5月が自転車月間と定められており、その一環として開催されている日本を代表する自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」の第1ステージです。第18回大会（平成27年）は国内外の全17チーム102名の選手が出場しました。堺ステージの当日には、堺ステージ独自レースとして堺国際クリテリウムや、国内の実業団の選手が出場するJBCFクリテリウムも開催されます。

その他、市民のスポーツへの関心を高めることを目的に、各種のスポーツイベントを実施しており、多くの市民が参加・観戦しています。

(3) スポーツ関係団体

本市の主なスポーツ関係団体として以下の団体があり、様々な活動を通じて本市のスポーツ推進に貢献しています。

◎公益財団法人堺市教育スポーツ振興事業団

スポーツ・レクリエーションの振興を通じて市民が健康で人間性豊かな生活を送り、かつ良好なコミュニティを形成することや、青少年活動の振興を通じて青少年自らが自主性と社会性を育み、心身ともに健やかに成長することに寄与することを目的として、平成8年12月に設立され、スポーツ振興自主事業やスポーツ施設管理運営事業等を行っております。

◎堺体育協会

市民を対象とするスポーツ諸団体相互の緊密な協調連絡を図り、スポーツの推進を通じて、競技力の向上とスポーツ精神を養うとともに、市民の健康づくりの推進と体力向上に寄与することを目的として昭和22年に結成されました。以後半世紀以上にわたり、本市のスポーツ統括団体として、堺市種目別優勝大会や堺市民マラソンなどの大会を主催するとともに、堺市民オリンピックなどにも協力しています。本市におけるスポーツを各種目別に統括する種目団体など30団体が堺体育協会に加盟しています。

◎堺市スポーツ少年団

堺市スポーツ少年団に登録している各種目の団体に所属する少年（団員）が、スポーツ及びその他の文化的諸活動を通じて、心身を鍛練して体力を強め、人間性を陶冶し、良き社会人となることを目的とした組織で、日本スポーツ少年団の加盟団体として活動しています。各種派遣事業（大阪府・近畿・全国スポーツ少年大会、全国交流大会、日独同時交流）のほか、堺市スポーツ少年団の独自事業としてスポーツ少年団中央大会などを行っています。

◎堺市スポーツ推進委員会

スポーツ基本法に基づき本市が委嘱し、市民へのスポーツに関する指導・助言を行っている「スポーツ推進委員」で組織されています。情報交換や相互の研鑽のための研修等事業や地域スポーツ推進のための競技大会を主催、運営しています。

◎堺市ボランティアスポーツ指導者会

「堺市スポーツ指導者」の資格を取得した者約100名をもって組織され、積極的なボランティア精神によりスポーツイベント（堺市民オリンピック、堺市障害者スポーツ大会等）への協力や地域、職場等のスポーツ・レクリエーション活動の指導に活躍しています。

◎特定非営利活動法人美原体育協会

スポーツの推進や健康づくりに関する事業を通じて、市民の体力づくりを推進し、健康で明るい市民の育成に寄与することを目的として、昭和50年に設立されました。その後平成13年に特定非営利活動法人の認証を取得しています。

(参考) 用語解説

○スポーツ

「スポーツ」とは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養（かんよう）等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」をいいます。（スポーツ基本法前文）

スポーツは、レクリエーション（楽しんで体を動かす事が主な目的）として行う場合、教育の一環（青少年の健全育成等を主な目的）として行う場合、競技（勝敗や記録が主な目的）として行う場合など、多様な目的において行われています。

また、スポーツは、次代を担う青少年の体力の向上、地域の一体感や活力の醸成、心身の健康の保持増進など、様々な役割を持っているものと言えます。

このようなスポーツの持つ多様な特性を踏まえ、本計画においては、「自らの意志で行う身体的な活動」を広く「スポーツ」ととらえています。

○競技スポーツ・生涯スポーツ

本計画においては、それぞれのライフスタイルや年齢、体力、運動技能、興味等に応じて行う身体的な活動を広く「スポーツ」としてとらえています。

スポーツには、スポーツの技術や記録の向上、ルールに基づく競技、人間の肉体的・精神的な極限への挑戦を追求することを重視するものと、自身の楽しみ・レクリエーションや健康づくり、社交等を目的に行われるものがあり、特に前者を「競技スポーツ」、後者を「生涯スポーツ」として表現しています。

○青少年

本計画において「青少年」とは、おおむね20歳未満の年齢の人を位置づけています。

青少年の時期にスポーツに親しむ習慣を身に付けることは、成人になってもスポーツを身近に感じることにつながるものです。この青少年の時期にスポーツに親しめるような取組を推進し、生涯にわたりスポーツを通じて健康でいきいきと暮らしていくことができる環境づくりをめざします。

○障害者スポーツ

本計画においては、心身に障害のある方が行うスポーツのことを「障害者スポーツ」と表現しています。

「障害者スポーツ」は、健康づくりやスポーツ技術の向上のみならず、自立心の醸成、障害者に対する偏見の払拭、社会参加や地域交流の機会提供など、様々な役割を果たしています。

代表的な国際競技大会としては、パラリンピックやデフリンピック、スペシャルオリンピック世界大会等があります。

○地域スポーツ

居住地や勤務先等、身近な地域に関わりのある人々が、年齢、性別、障害の有無等を超えて、共に楽しむスポーツのことを特に「地域スポーツ」と表現しています。

地域スポーツを通じて市民相互の交流機会が充実することは、まちの賑わいづくりにもつながるものであり、市民の自主的な地域スポーツ活動を積極的にサポートしていきます。

○地域スポーツクラブ

「地域スポーツクラブ」とは「住民が主体的に運営するスポーツ団体」（スポーツ基本法第21条）のことをいいます。いわゆる総合型地域スポーツクラブのほか、住民が主体的に運営するものであれば、単一種目のスポーツクラブも含まれます。

地域スポーツクラブの活動は、多世代の市民が相互に交流できる機会となるものであることを踏まえ、地域スポーツクラブの創設やクラブ活動の支援を強化していきます。

○ニュースポーツ

ニュースポーツとは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に誰もが手軽に楽しめるスポーツのことをいいます。ルールがやさしく、適度な運動量で年齢や男女の差によるハンディが少ないなどの特徴があります。

競い合うことよりも楽しむことを主な目的としており、健康づくりはもちろんのこと、地域イベント等でのコミュニケーションづくりにもつながるものとして期待されます。

○ブレイザーズカップ

明るくたくましい青少年の育成を目的に、新日鐵住金株式会社堺製鐵所・株式会社ブレイザーズスポーツクラブ・堺市スポーツ少年団が共催で行うスポーツ大会です。大会種目は、サッカー・剣道・空手の3種目で主に小中学生が対象の大会です。

(参考)

平成27年度 堺市民のスポーツと健康に関する市民意識調査報告書 概要版

(1) 調査の概要

調査目的	スポーツと健康に関する市民の意識や実践状況、施策ニーズ等を把握するとともに、過去に本市で実施した調査や国などが実施した調査の結果との比較を行い、今後のスポーツ推進施策を考える上での基礎資料とするために実施しました。
調査対象	20歳以上の市民 男女 計5,000名 ※住民基本台帳(外国人住民を含む)から層化3段無作為抽出により抽出)
調査方法	調査票を郵送し、無記名自記式で回答のうえ返信してもらいました。
調査期間	平成27年4月16日(木)から4月30日(木)まで
回収状況	発送数5,000件(うち調査票到達数4,939件、調査票不達数61件) 回収数1,826件(うち有効回答数1,824件、無効回答数2件) ※有効回答率36.5%

【参考】過去調査の有効回答率 【本資料のみかた】

平成22年度調査:40.4% ※郵送法
平成17年度調査:41.0% ※郵送法
平成10年度調査:39.0% ※郵送法
平成4年度調査:58.6% ※直接配布・回収、郵送法を併用

- 調査結果の集計構成比(%)は小数点以下第2位を四捨五入し算出しているため、内訳の合計が必ずしも100%とならない場合があります。
- 各設問の「その他の内容」や自由回答意見で紹介した内容については、おおむね調査票に記述された原文を尊重し、記載しています。
- 今回の調査データと比較した国及び他都市の調査データの名称は以下の通りです。
 - ・文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成25年1月実施)
 - ・大阪府クイック・リサーチ「おおさかQネット」
 - 「府民の運動・スポーツ」に関するアンケート(平成27年2~3月実施)

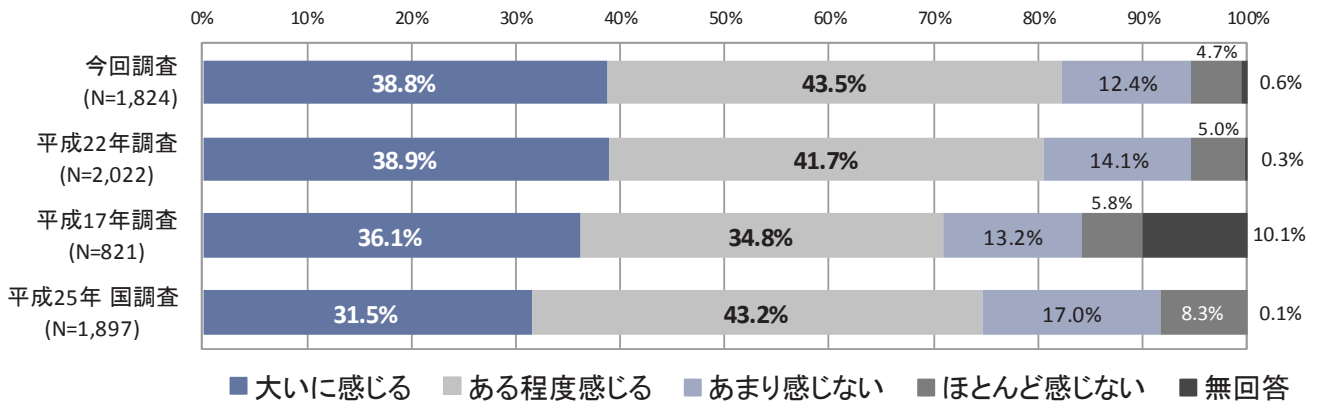
(2) 運動・スポーツに対する市民の意識

①健康・スポーツに対する意識

■ 「運動不足」と感じている人が年々増加している一方で、運動やスポーツをみるのが好きな人・自分ですることが好きな人は前回調査より減少傾向にある。

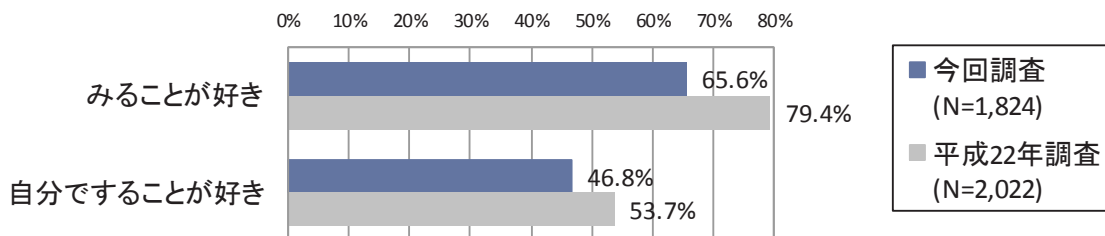
○ ふだんの運動不足度については、回を追うごとに「運動不足」を感じている人の割合が増える傾向が見られます。さらに、国の調査結果と比較しても、本市は「運動不足」と自己評価する人が高い水準にあります。

ふだんの運動不足度について(市調査推移及び国調査との比較)



○ 運動やスポーツに対する印象については、運動やスポーツを「みるのが好き」と回答した人は65.6%、「自分ですることが好き」と回答した人が46.8%となっており、平成22年調査と比べていずれも少なくなっています。

運動やスポーツについての印象(前回調査との比較)



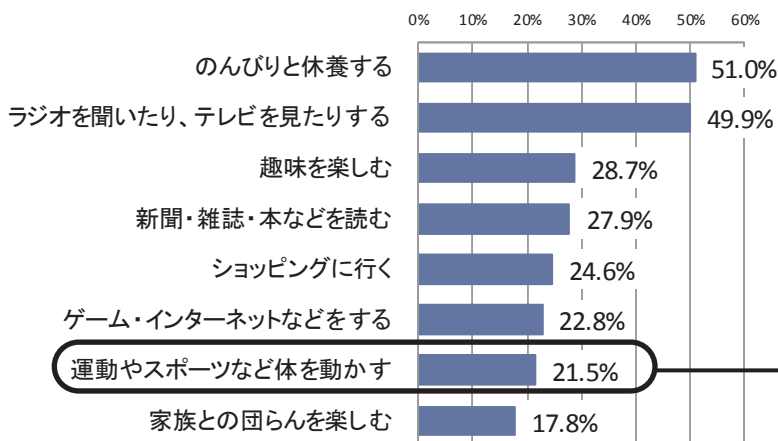
○ これらのことから、市民の健康・スポーツに対する意識や関心は、前回調査よりも低い傾向にあると考えられます。

②健康・スポーツに対する取組姿勢

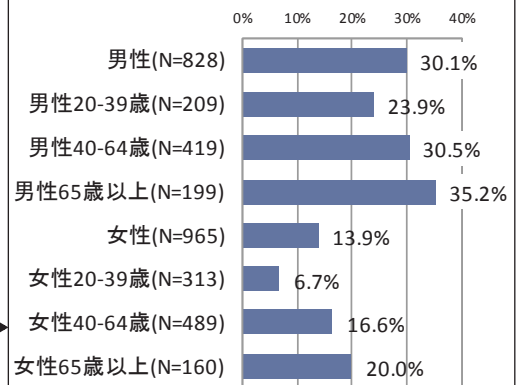
- 好きなことができる時間(自由時間)に運動やスポーツをする人は20%程度に止まり、健康のために運動やスポーツをする人が年々減少。日頃から意識して運動やスポーツをする人が減少傾向にある。

- 好きなことができる時間(自由時間)については、平日では「のんびりと休養する」(51.0%)、「ラジオを聞いたり、テレビを見たりする」(49.9%)が多く、「運動やスポーツなど体を動かす」は21.5%と、前回調査(21.9%)とほぼ同じ水準です。また、女性は「運動やスポーツなど体を動かす」への回答が少なく、特に、女性20～39歳(6.7%)、女性40～64歳(16.6%)は少なくなっています。

好きなことができる時間にすること(上位8項目) (N=1,824)



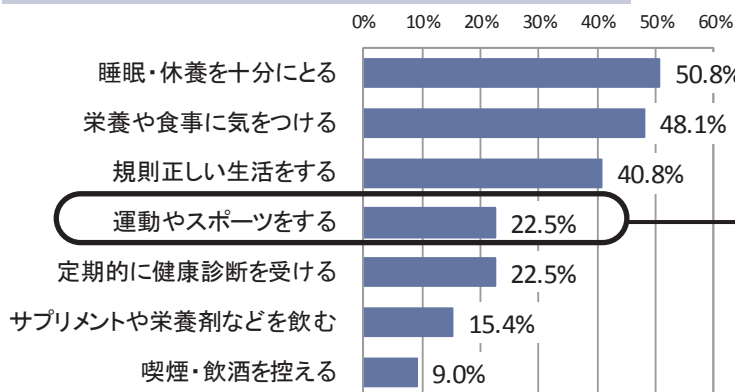
好きなことができる時間に「運動やスポーツなど体を動かす」人の割合(性別・年齢別比較)



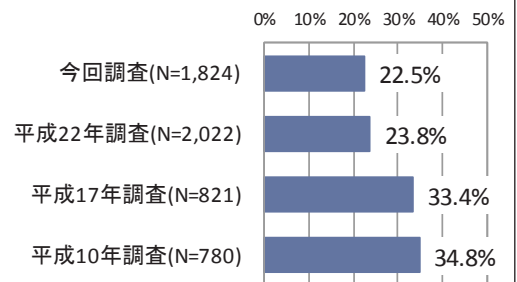
- 健康を保つために心がけていることとしては、「睡眠・休養を十分にとる」、「栄養や食事に気をつける」、「規則正しい生活をする」が40%以上の回答を得ており多い一方、「運動やスポーツをする」と回答した人は22.5%に止まります。また、平成17年調査では33.4%、平成22年調査では23.8%と、回を追うごとに「運動やスポーツをする」と回答する人は少なくなっています。

- これらのことから、日頃から意識して運動やスポーツをする人が少ない傾向にあると考えられます。

健康を保つために心がけていること(上位7項目) (N=1,824)



健康を保つために心がけていること(「運動やスポーツをする」への回答:市調査推移との比較)

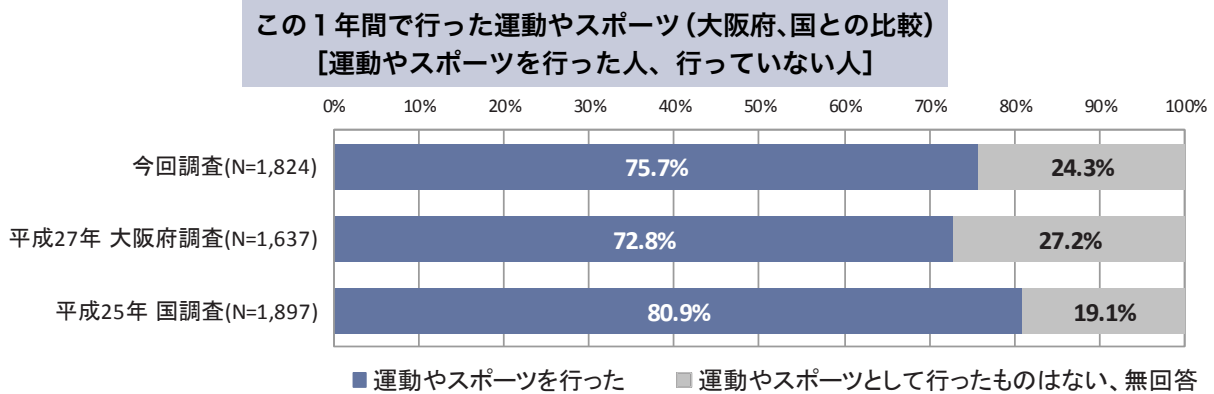


(3) 運動・スポーツの実施状況、今後の取組意向

①この1年間で行った運動・スポーツ、今後行いたい運動・スポーツ

■ 1年間で何らかの運動・スポーツを行った人は 75.7%。この1年間で行った運動・スポーツ、今後行いたい運動・スポーツともに、散歩・ウォーキングが最も多く、第2位は年齢・性別により異なる。

○ この1年間で何らかの運動・スポーツを行った人は 75.7%となっており、大阪府の調査結果よりも 2.9 ポイント高い一方、国の調査結果よりも 5.2 ポイント低くなっています。



○ この1年間で行った運動・スポーツの種目としては、全ての性別・年齢において「散歩、ウォーキング」が他よりも突出して多くなっています。また、第2位をみると、男性 20～39 歳は「ジョギング、ランニング」、男性 40 歳以上は「ゴルフ(コース・練習場)」、女性では全ての年齢層において「ストレッチ、ラジオ体操、なわとび」となっています。

【性別・年齢別にみるこの1年間で行った運動やスポーツ】

順位	回答者全体 (N=1,824)	回答率	男性全体 (N=828)	回答率	女性全体 (N=965)	回答率
1	散歩、ウォーキング	62.2%	散歩、ウォーキング	58.3%	散歩、ウォーキング	65.4%
2	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	21.0%	ゴルフ(コース・練習場)	20.0%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	27.4%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	14.5%	ジョギング、ランニング	17.3%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	13.1%
4	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	14.3%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	16.8%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	12.5%
5	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	12.3%	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	16.7%	太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操	11.2%

順位	男性 20～39 歳 (N=209)	回答率	男性 40～64 歳 (N=419)	回答率	男性 65 歳以上 (N=199)	回答率
1	散歩、ウォーキング	57.4%	散歩、ウォーキング	55.8%	散歩、ウォーキング	64.3%
2	ジョギング、ランニング	32.1%	ゴルフ(コース・練習場)	22.2%	ゴルフ(コース・練習場)	21.1%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	27.8%	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	19.6%	ハイキング、登山、クライミング	14.1%
4	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	25.4%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	16.7%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	13.1%
5	サッカー、フットサル	23.9%	ジョギング、ランニング	15.8%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	10.6%

順位	女性 20～39 歳 (N=313)	回答率	女性 40～64 歳 (N=489)	回答率	女性 65 歳以上 (N=160)	回答率
1	散歩、ウォーキング	71.2%	散歩、ウォーキング	65.4%	散歩、ウォーキング	53.8%
2	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	31.6%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	28.2%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	16.3%
3	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	19.5%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	12.3%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	15.0%
4	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	14.7%	太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操	12.1%	ハイキング、登山、クライミング	15.0%
5	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	13.1%	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	10.8%	水泳、水中歩行、アクアビクス	8.1%

○ 今後行いたい運動・スポーツの種目としては、「散歩、ウォーキング」が最も多く、次いで、「筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動」、「水泳、水中歩行、アクアビクス」、「ハイキング、登山、クライミング」、「ジョギング、ランニング」と続きます。また、第2位をみると、男性 20～64 歳は「筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動」、男性 65 歳以上は「ゴルフ(コース・練習場)」、女性の 20～39 歳及び 65 歳以上は「水泳、水中歩行、アクアビクス」、女性 40～64 歳は「太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操」となっています。

【性別・年齢別にみる今後行いたい運動・スポーツ】

順位	回答者全体 (N=1,657)	回答率	男性全体 (N=757)	回答率	女性全体 (N=872)	回答率
1	散歩、ウォーキング	54.9%	散歩、ウォーキング	51.3%	散歩、ウォーキング	58.1%
2	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	25.5%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	27.2%	水泳、水中歩行、アクアビクス	26.3%
3	水泳、水中歩行、アクアビクス	22.0%	ゴルフ(コース・練習場)	23.6%	太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操	26.0%
4	ハイキング、登山、クライミング	20.8%	ハイキング、登山、クライミング	21.0%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	25.2%
5	ジョギング、ランニング	17.7%	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	20.1%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	24.0%

順位	男性 20～39 歳 (N=194)	回答率	男性 40～64 歳 (N=388)	回答率	男性 65 歳以上 (N=174)	回答率
1	散歩、ウォーキング	32.5%	散歩、ウォーキング	54.9%	散歩、ウォーキング	63.8%
2	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	29.4%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	29.4%	ゴルフ(コース・練習場)	21.3%
3	サッカー、フットサル	26.8%	ゴルフ(コース・練習場)	25.3%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	20.1%
4	ジョギング、ランニング	25.8%	ハイキング、登山、クライミング	24.5%	ハイキング、登山、クライミング	16.7%
5	ボウリング、ビリヤード、ダーツ	23.7%	海水浴、釣り、キャンプなどの野外活動	23.7%	水泳、水中歩行、アクアビクス	14.4%
	野球、ソフトボール	23.7%				

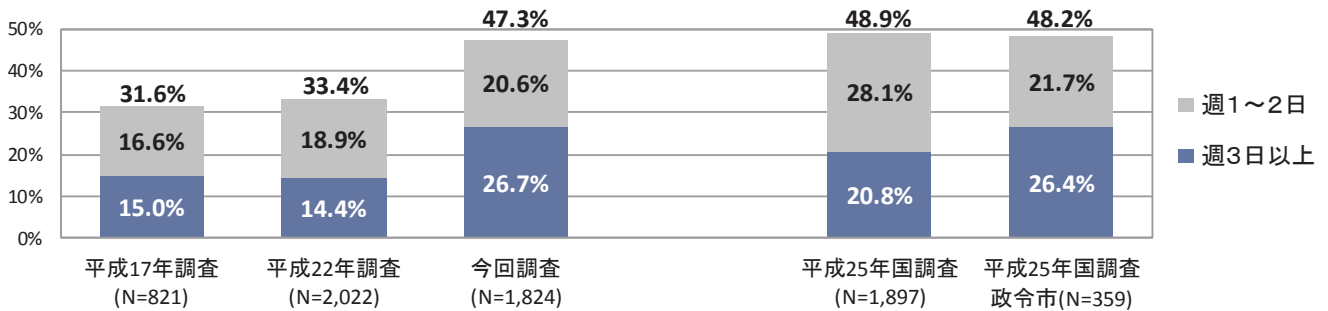
順位	女性 20～39 歳 (N=298)	回答率	女性 40～64 歳 (N=459)	回答率	女性 65 歳以上 (N=112)	回答率
1	散歩、ウォーキング	55.7%	散歩、ウォーキング	59.5%	散歩、ウォーキング	58.9%
2	水泳、水中歩行、アクアビクス	34.2%	太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操	28.3%	水泳、水中歩行、アクアビクス	23.2%
3	太極拳、ヨガ、チューブ体操、その他体操	27.5%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	27.7%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	21.4%
4	ハイキング、登山、クライミング	25.2%	筋力トレーニング、器具を使った有酸素運動	27.5%	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	19.6%
5	ストレッチ、ラジオ体操、なわとび	23.8%	水泳、水中歩行、アクアビクス	22.0%	ハイキング、登山、クライミング	17.9%

②運動・スポーツを行っている人の割合

■ 週1日以上、運動・スポーツを行った人は 47.3%と前回調査より大幅に増加。実施頻度の増加、ウォーキングやストレッチ等を行う人の増加、実施時間の短時間化の傾向が見られる。

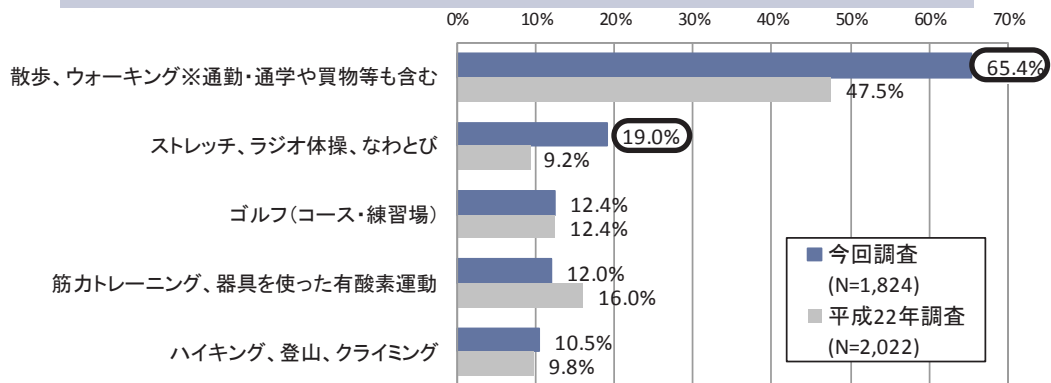
○ 性別・年齢別に本市の実際の人口に当てはめた「スポーツ実施率」(成人の週1回以上運動をしている人の割合)は47.3%となり、平成22年調査(33.4%)と比べて大幅に増加しています。また、スポーツ実施率を国の調査結果と比較すると、国よりも1.6ポイント、政令指定都市の平均よりも0.9ポイント、それぞれ低くなっています。

堺市におけるスポーツ実施率 (過去の調査結果や国の調査結果との比較)



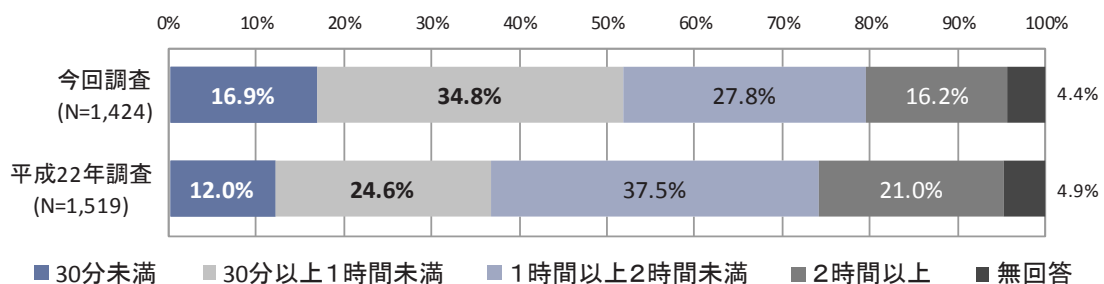
○ この1年間で行った運動・スポーツを前回調査と比較すると、「散歩、ウォーキング」「ストレッチ、ラジオ体操、なわとび」の2項目は今回調査の方が回答の割合が大きく、これらの運動・スポーツを行った人の増えたことが、スポーツ実施率の向上につながったと考えられます。

この1年間で行った運動やスポーツ 上位5位 (過去の調査結果との比較)



○ 1回あたりの運動やスポーツを行う時間については、「30分以上1時間未満」が34.8%と最も多く、次いで、「1時間以上2時間未満」(27.8%)と続きます。さらに、平成22年調査の第1位は「1時間以上2時間未満」が37.5%と最も多く、今回調査の方が1回あたりの運動やスポーツを行う時間が短い傾向が見られます。

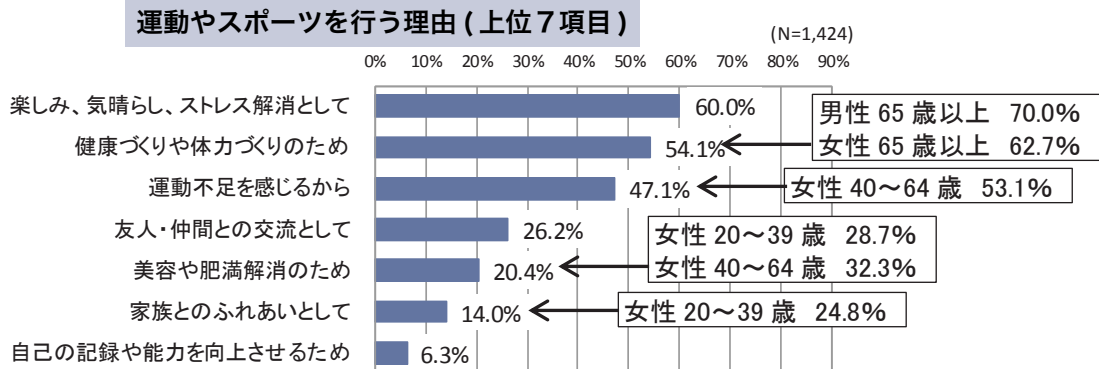
1回あたりの運動やスポーツを行う時間 (前回調査との比較)



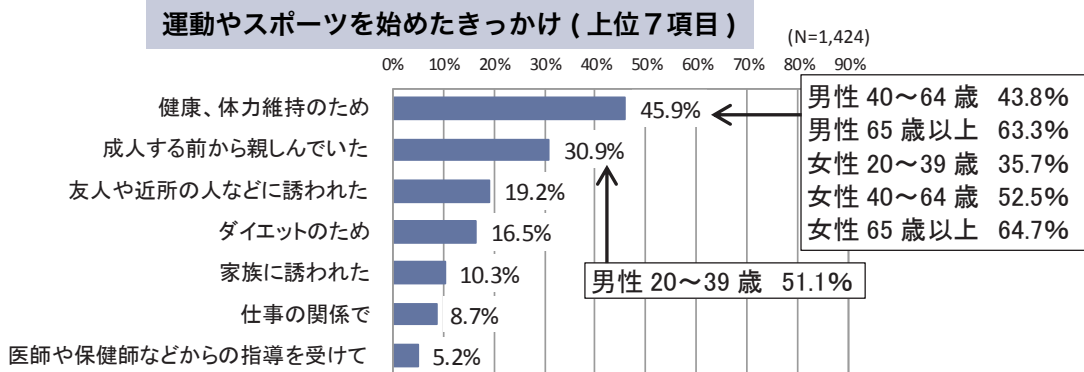
③運動・スポーツを行っている人の実施傾向

■ 運動・スポーツを行う理由は、楽しみ・気晴らし・ストレス解消、健康づくりや体力づくり、運動不足を感じるため。自分ひとりで、若しくは友人や知人、家族と一緒にいる人が多い。

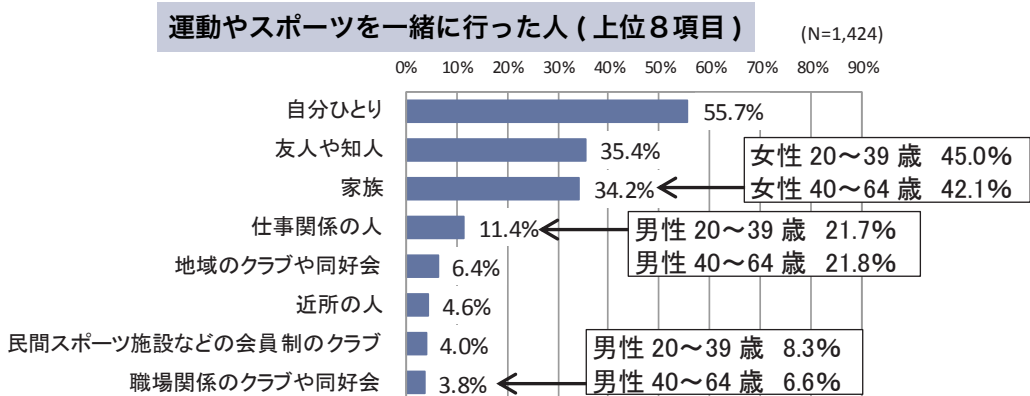
○ 運動・スポーツを行う理由としては、「楽しみ・気晴らし・ストレス解消として」が 60.0%と最も多く、次いで「健康づくりや体力づくりのため」「運動不足を感じるから」と続きます。また、65 歳以上の男女では、「健康づくりや体力づくりのため」が第1位であるほか、「運動不足を感じるから」が女性 40～64 歳で、「美容や肥満解消のため」が女性 20～64 歳で、「家族とのふれあいとして」が女性 20～39 歳で、それぞれ他よりも回答が多くなっています。



○ 運動・スポーツを始めたきっかけとしては、「健康、体力維持のため」「成人する前から親しんでいた」が 30%を超えており、多くなっています。また、男性 20～39 歳では「成人する前から親しんでいた」が第1位になっています。



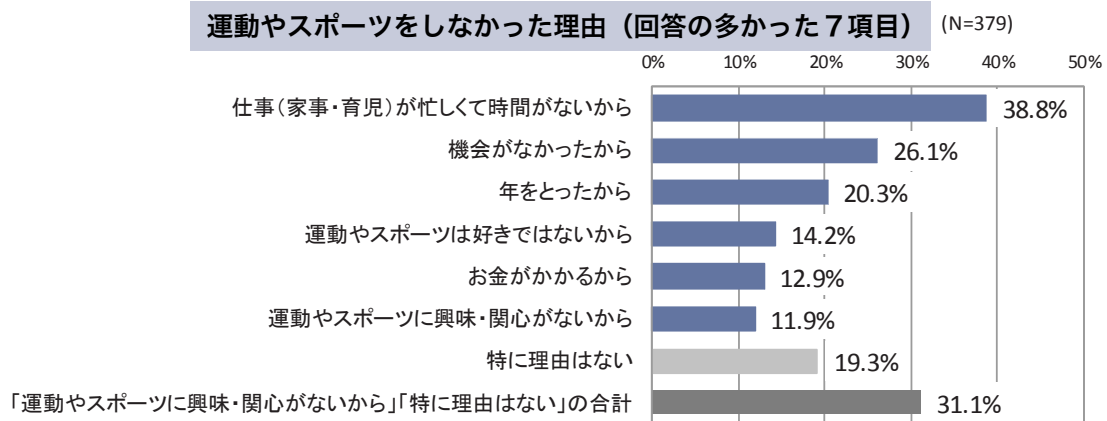
○ 運動・スポーツを一緒にいった人としては、「自分ひとり」、「友人や知人」、「家族」が 30%を超えており、多くなっています。男性 20～64 歳で「仕事関係の人」や「職場関係のクラブや同好会」への回答が多く、働き盛りの男性は仕事で知り合った人と運動やスポーツをする機会が多いという傾向が見られます。また、女性 20～64 歳では「家族」が他よりも回答が多くなっています。



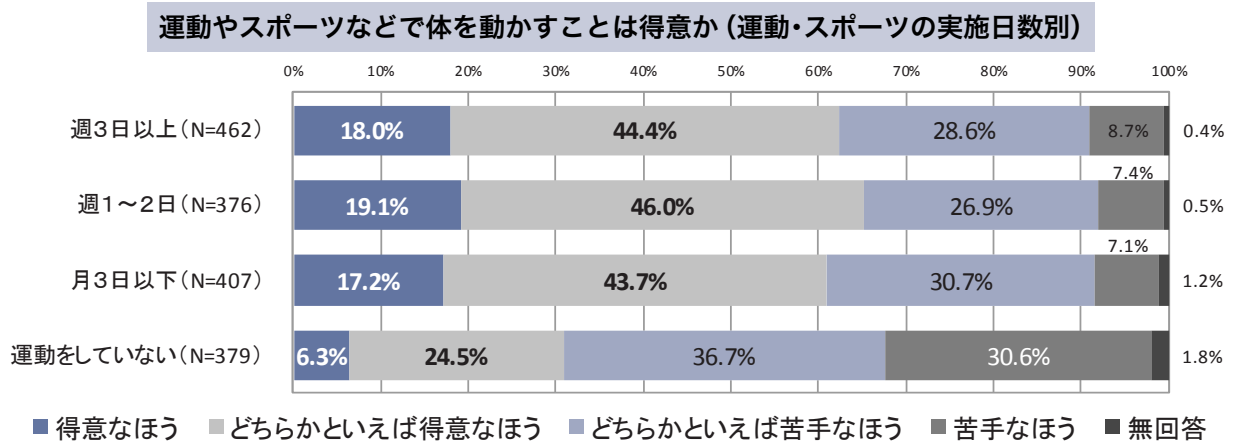
④運動・スポーツを行っていない人の運動・スポーツに対する意識及び今後の実施意向

■ 運動・スポーツに対する関心が低い人、苦手意識を持つ人が多い。今後、運動・スポーツを行いたい人は69.6%に及び、始めるためのきっかけは多種多様である。

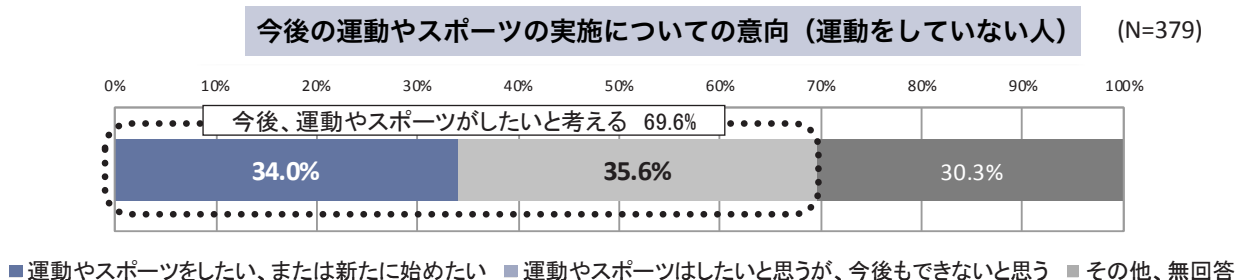
○ この1年間に運動・スポーツをしなかった理由としては、「仕事(家事・育児)が忙しくて時間がないから」が38.8%と最も多く、次いで「機会がなかったから」「年をとったから」と続きます。また、「運動やスポーツに興味・関心がないから」と「特に理由はない」の合計が30%強に及び、運動やスポーツをしない人の中には、運動やスポーツに対して関心を持たない人が多いと考えられます。



○ 運動・スポーツなどで体を動かすことについては、運動をしている人は60%以上が「得意」と自己評価している一方、運動をしていない人は67.3%が「苦手」と自己評価しており、運動をしている人としていない人で大きな差が見られます。



○ 一方、この1年間運動をしていない人のうち、今後運動やスポーツがしたいと考える人が69.6%に及んでおり、実施意向がある人は多いと考えられます。また、運動やスポーツを始めるきっかけとしては、「安価に実施できるのであれば」「近場にスポーツができる場所があれば」「多種多様なスポーツ教室があれば」「時間の余裕があれば」など、多種多様なきっかけがあげられています。

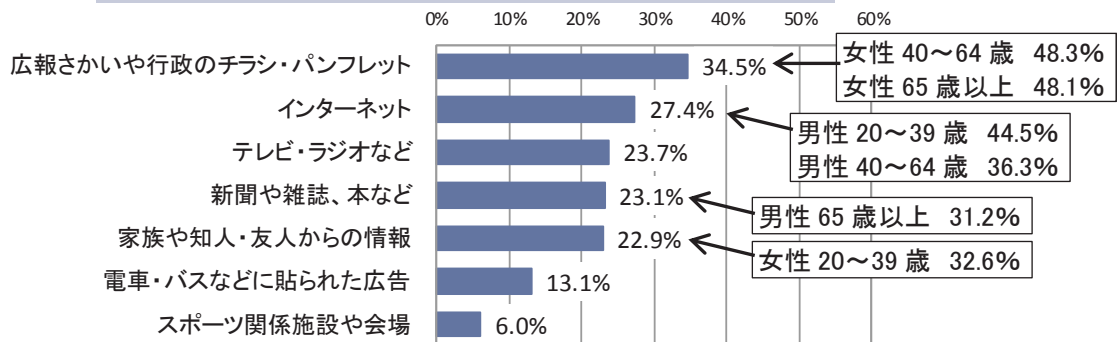


⑤運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源、知りたい情報

■ 性別・年齢別により、運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源、知りたい情報が異なる。

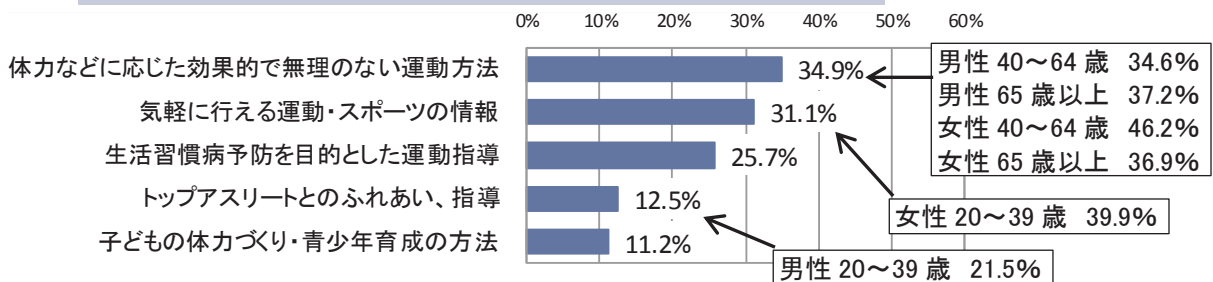
○ 運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源としては、回答者全体では「広報さかいや行政のチラシ・パンフレット」が 34.5%と最も多く、次いで「インターネット」「テレビ・ラジオなど」「新聞や雑誌、本など」、「家族や知人・友人からの情報」と続きます。また、女性 40 歳以上は「広報さかいや行政のチラシ・パンフレット」が、男性 20～64 歳は「インターネット」が、男性 65 歳以上「新聞や雑誌、本など」が、女性 20～39 歳は「家族や知人・友人からの情報」がそれぞれ他よりも多く、性別・年齢別により異なる傾向が見られます。

運動やスポーツ、健康づくりに取り組む際の情報源 (上位7項目) (N=1824)



○ 情報を得たい・講座等で学んでみたい運動やスポーツ、健康づくりとしては、回答者全体では「体力などに応じた効果的で無理のない運動方法」が 34.9%と多く、次いで、「気軽に行える運動・スポーツの情報」「生活習慣病予防を目的とした運動指導」と続きます。また、男性 20～39 歳は「トップアスリートとのふれあい、指導」が、女性 20～39 歳は「気軽に行える運動・スポーツの情報」が、40 歳以上の男女では「体力などに応じた効果的で無理のない運動方法」がそれぞれ第1位になっており、性別・年齢別により異なる傾向が見られます。

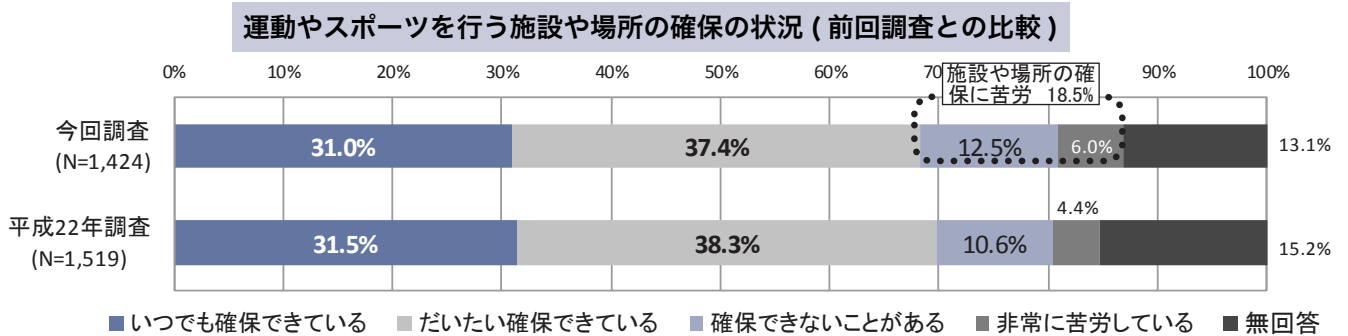
情報を得たい・学んでみたい運動やスポーツ、健康づくり (上位5項目) (N=1,824)



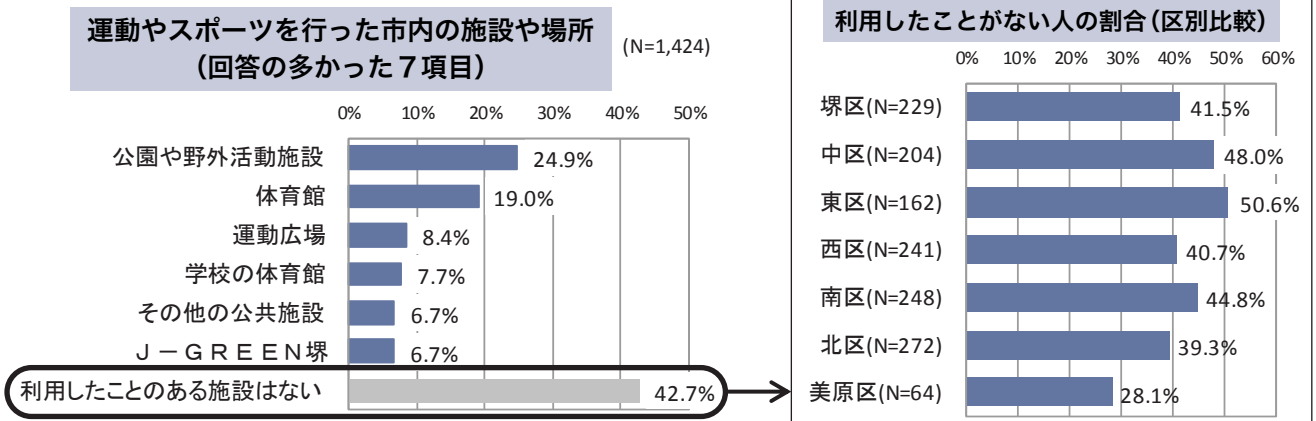
⑥運動・スポーツを行う施設や場所の利用状況

■ 施設や場所が確保しづらい傾向にあり、特に確保しづらい種目も見られる。施設や場所が確保しづらい区では、施設や場所の利用が少なく、スポーツ行事への関心も低い。

○ 運動・スポーツを行う施設や場所の確保状況については、施設や場所の確保に苦労していると回答した人が18.5%見られ、平成22年調査よりも3.5ポイント多くなっています。また、運動・スポーツの種目の中では、「バレーボール、ソフトバレーボール」「野球、ソフトボール」「サッカー、フットサル」「テニス、ソフトテニス」において、施設や場所の確保に苦労していると回答した人が特に多くなっています。さらに、7区別にみると、東区で、施設や場所の確保に苦労している人が多くなっています。



○ 利用したことのある市内の施設や場所の中では、「公園や野外活動施設」「体育館」が多い一方、「利用したことのある施設はない」と回答した人も42.7%に及んでいます。また、7区別にみると、東区及び中区では、利用したことのある施設はない人は50%前後に及び、他の区よりも多い一方、美原区は28.1%に止まり、少なくなっています。

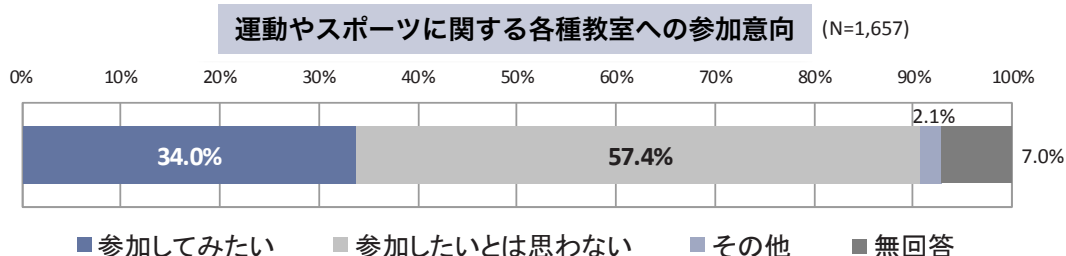


○ 参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事については、7区別にみると、東区で「特に参加してみたい行事はない」が、他よりも回答の多い傾向が見られます。

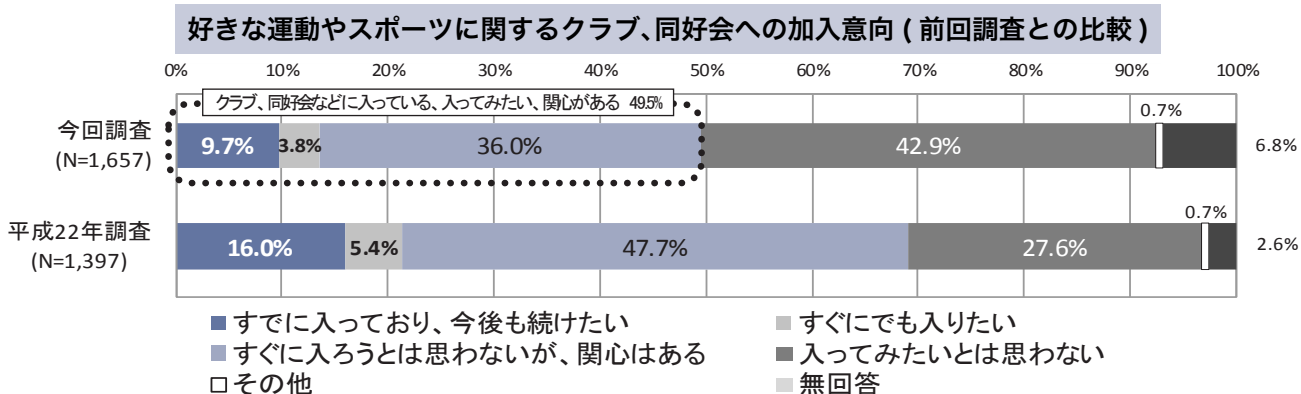
⑦各種教室やクラブ、同好会、スポーツ行事への参加意向、関心度

■ 各種教室は 34.0%、クラブ、同好会は 49.5%の人に参加意向がある。性別や年齢、就労状況により、関心のある各種教室やクラブ、同好会、スポーツ行事は異なる傾向が見られる。

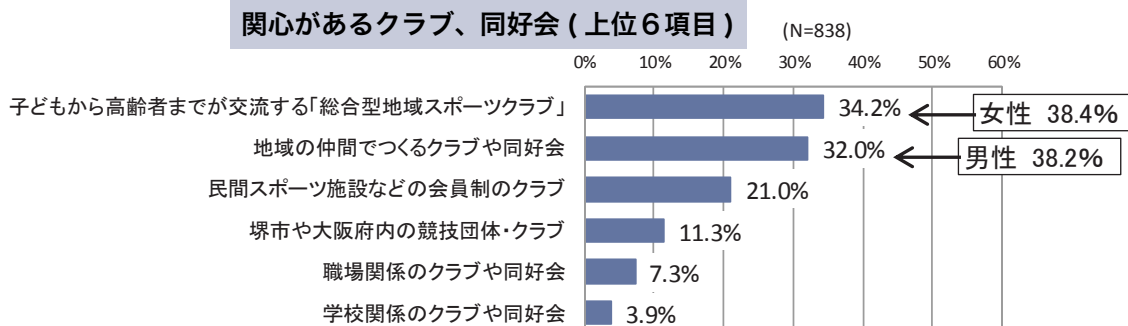
○ 運動やスポーツに関する各種教室への参加意向については、「参加してみたい」人は 34.0%に及びます。



○ 好きな運動やスポーツに関するクラブ、同好会への加入意向については、クラブ、同好会などにすでに入っている若しくは入ってみたい、関心があると回答した人は 49.5%と、平成 22 年調査(69.1%)と比べて加入意向は低くなっています。



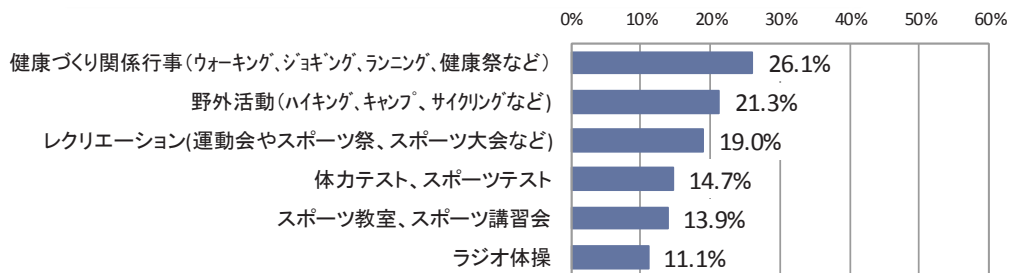
○ 関心があるクラブ、同好会については、「子どもから高齢者までが交流する「総合型地域スポーツクラブ」」が最も多く、次いで「地域の仲間をつくるクラブや同好会」と続きます。男性は「地域の仲間をつくるクラブや同好会」が、女性は「子どもから高齢者までが交流する「総合型地域スポーツクラブ」」がそれぞれ第1位となっており、性別により異なる傾向が見られます。



- 参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事としては、「健康づくり行事(ウォーキング、ジョギング、ランニング、健康祭)」が最も多く、次いで「野外活動(ハイキング、キャンプ、サイクリングなど)」、「レクリエーション(運動会やスポーツ祭、スポーツ大会など)」と続きます。

参加してみたい市や区単位、町内会でのスポーツ行事(上位6項目)

(N=1,824)



- また、性別・年齢別、就労状況別といった属性別に、参加してみたいスポーツ行事はそれぞれ異なり、以下のように、複数の属性で回答の多い選択項目がいくつか見られます。スポーツ行事の企画・運営においては、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った対応が望まれているものと考えられます。

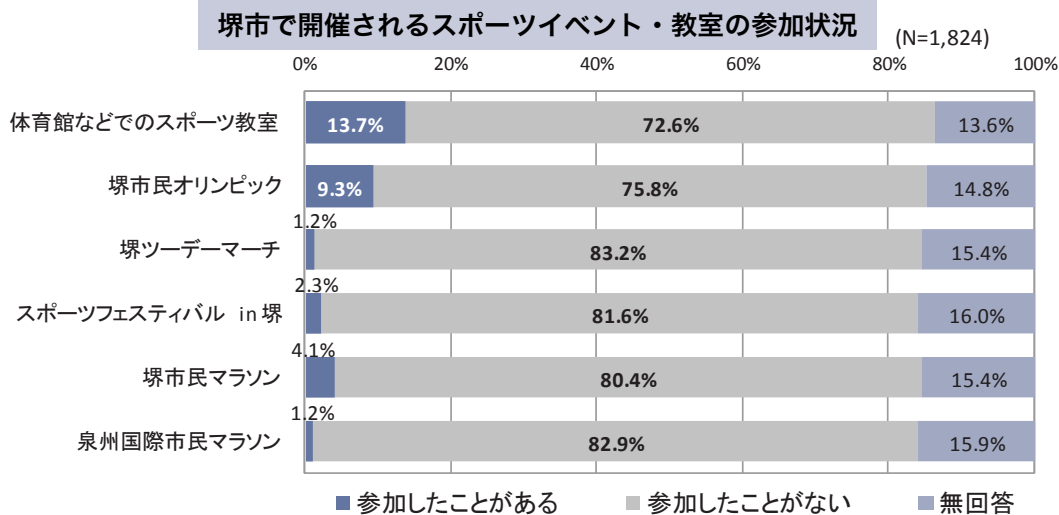
選択項目(回答者全体の多い順)	回答の多い属性
健康づくり関係行事(ウォーキング、ジョギング、ランニング、健康祭など)	40歳以上の男女／男性非就労者
レクリエーション(運動会やスポーツ祭、スポーツ大会など)	20～39歳の男女／学生
体カテスト、スポーツテスト	男性20～39歳／学生
スポーツ教室、スポーツ講習会	女性40～64歳／女性就労者／学生
ラジオ体操	女性40歳以上／女性非就労者

(4) 堺市における今後のスポーツ推進に向けた市民ニーズ

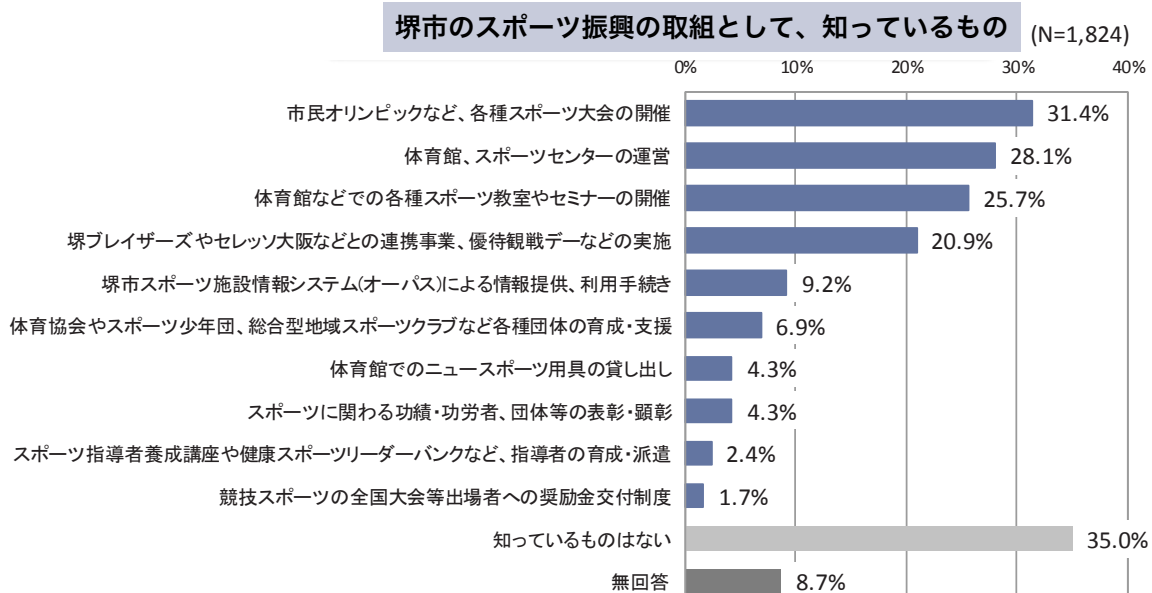
① スポーツ推進の取組に関する認知度、情報発信に対するニーズ

■ 本市のスポーツイベント・教室、スポーツ推進に向けた取組への認知度が低い。多様な属性に必要な情報を届けるための情報発信の充実・強化が望まれている。

- 本市で開催される主な6つのスポーツイベント・教室の参加状況について、6つの中では参加者が比較的多い「体育館などでのスポーツ教室」、「堺市民オリンピック」を除くと、参加したことがある人は5%に満たない結果となっています。また、6つのスポーツイベント・教室とも、参加したことがない理由として「開催されていることを知らない」といった回答が見られます。
- スポーツイベント・教室に対する意見としては、情報発信の強化やレベル別クラス別教室の充実、色んな人が参加できる曜日・時間の設定、近場でのスポーツイベント・教室の開催、企画の改善・質の向上などがあり、特に情報発信については、電車・バス内や駅広告、スマートフォン、SNS(インスタグラム、Facebookなど)といった媒体による発信を求める意見が見られます。



- 本市のスポーツ推進に関する取組の認知度については、最も認知度の高い「市民オリンピックなど、各種スポーツ大会の開催」でも31.4%に止まる一方、選択項目としてあげた取組について「知っているものはない」と回答した人が35.0%に及び、全般的に認知度は低いと考えられます。

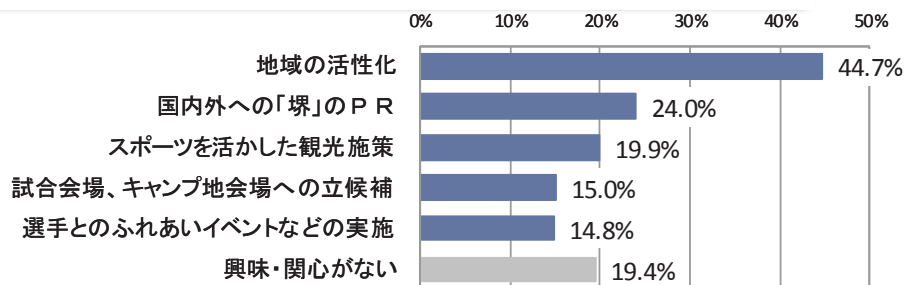


○ この他に、本市の公共スポーツ施設の数と質に対する意見や、本市に対する自由回答意見の中でも、広報や情報提供の充実・強化に対する意見が複数寄せられています。これらのことから、性別・年齢別や、運動をしている人としていない人など、多様な属性に必要な情報が届くような取組が望まれているものと考えられます。

■ ラグビーワールドカップ 2019 や 2020 年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 の開催にあたっては、行政等に「地域の活性化」や「シティプロモーション」、「観光推進」を期待している。

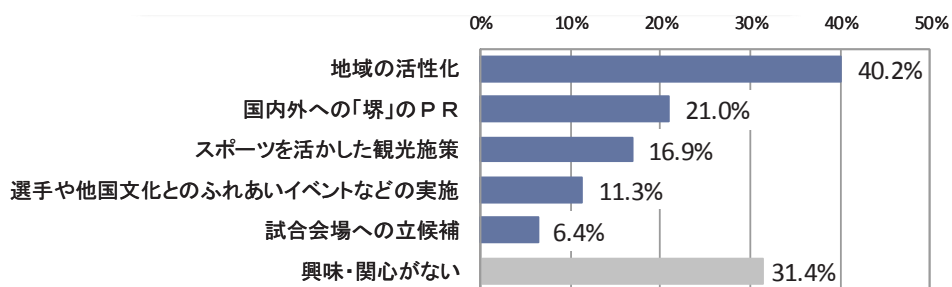
○ 「ラグビーワールドカップ 2019」「2020 年東京オリンピック・パラリンピック」の開催にあたり行政などに期待することとしては、「地域の活性化」が 44.7%と最も多く、次いで「国内外への「堺」のPR」「スポーツを活かした観光施策」と続きます。

「ラグビーワールドカップ2019」「2020年東京オリンピック・パラリンピック」について、行政などに期待すること(回答の多かった6項目) (N=1,824)



○ 生涯スポーツの世界最高峰の国際総合競技大会である「関西ワールドマスターズゲームズ 2021」の開催にあたり、行政等に期待することとしては、「地域の活性化」が 40.2%と最も多く、次いで「国内外への「堺」のPR」「スポーツを活かした観光施策」となっています。

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の開催にあたり、行政などに期待すること(回答の多かった6項目) (N=1,824)

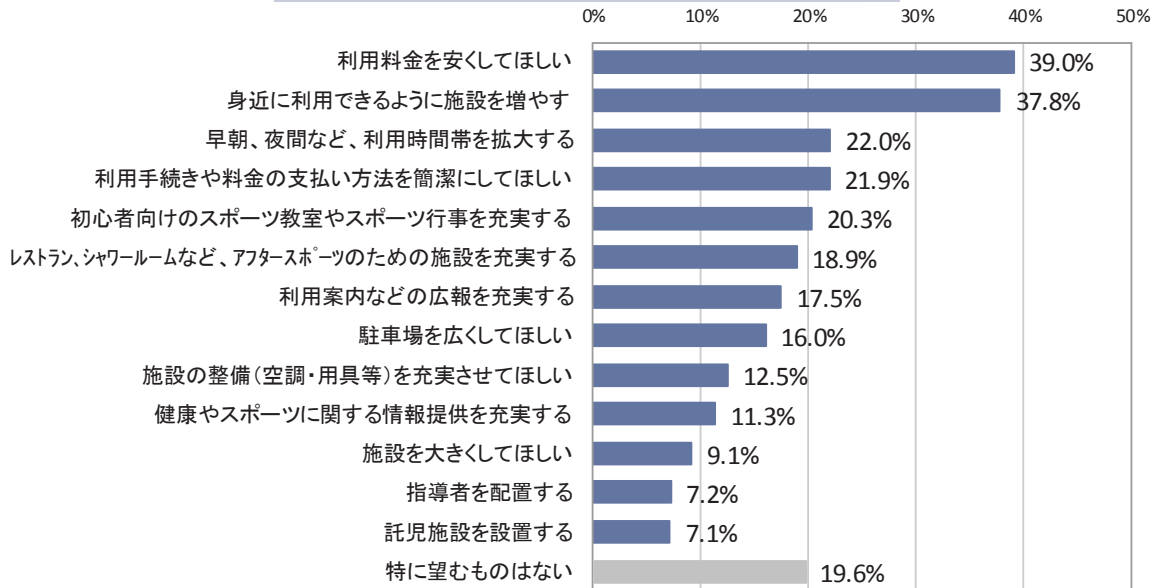


②運動・スポーツを行う施設や場所に対するニーズ

- 属性別に、公共スポーツ施設に望むことは異なり、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った施設整備が望まれているものと考えられる。

○ 本市内の公共スポーツ施設に望むこととしては、「利用料金を安くしてほしい」(39.0%)、「身近に利用できるように施設を増やす」(37.8%)の2項目が他よりも多く、次いで「早朝、夜間など、利用時間帯を拡大する」「利用手続きや料金の支払い方法を簡潔にしてほしい」「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実する」と続き、多様なニーズが見られます。

堺市内の公共スポーツ施設に望むこと(選択項目) (N=1,824)

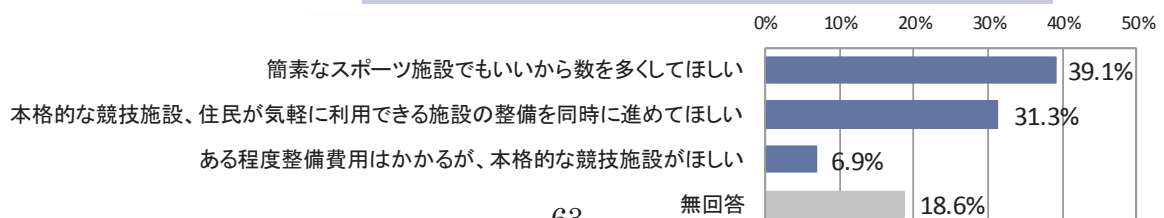


○ また、性別・年齢別、就労状況別、運動・スポーツの実施状況別といった属性別に、公共スポーツ施設に望むことはそれぞれ異なり、以下のように、複数の属性で回答の多い選択項目がいくつか見られます。施設整備においては、それぞれのライフスタイルや行動パターンに沿った対応が望まれているものと考えられます。

選択項目(回答者全体の多い順)	回答の多い属性
早朝、夜間など、利用時間帯を拡大する	20~39歳の男女/男性就労者/女性就労者/学生
利用手続きや料金の支払い方法を簡潔にしてほしい	男性就労者/女性就労者/学生
初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事を充実する	女性40~64歳/女性就労者
レストラン、シャワールームなど、アフタースポーツのための施設を充実する	女性就労者/運動をしている人
健康やスポーツに関する情報提供を充実する	女性40~64歳/運動をしていない人
託児施設を設置する	女性20~39歳/女性就労者/運動をしていない人

○ 本市の公共スポーツ施設の数と質についての意見としては、「簡素な施設でいいから数を多くしてほしい」、「本格的な競技施設、住民が気軽に利用できる施設の整備を同時に進めてほしい」が30%以上に及び、多くなっています。

堺市の公共スポーツ施設の数と質の充実についての意向 (N=1,824)



③スポーツ指導者に対するニーズ

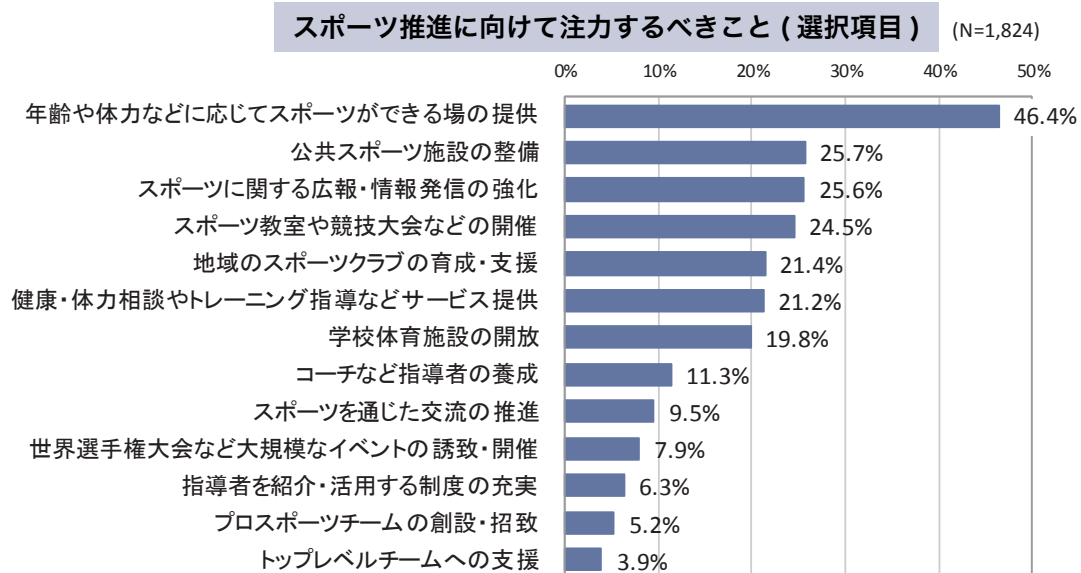
■ スポーツに対する関心と呼び、健康づくりのための運動指導のできる人が望まれている。

- 本市内に必要だと思うスポーツ指導者としては、「スポーツの楽しみ方や興味・関心の湧く指導ができる人」(53.9%)、「健康づくり・体力づくりの運動・スポーツ指導ができる人」(47.9%)と回答した人が 50%前後に及び、多くなっています。
- スポーツボランティア活動に対する関心度については、「活動を知らない」(35.4%)や「必要性は認めるが、あまり関心はない」(21.0%)、「関心はあるが、今のところ活動する気はない」(19.4%)が多く、スポーツボランティアとして活動してみたいと回答した人は 6.5%に止まります。

④今後のスポーツ推進施策に対する市民ニーズ

■ 年齢層にあったスポーツの普及、施設の整備、広報・情報発信の強化、スポーツ教室や競技大会などの開催が望まれている。

- スポーツの推進に向けて注力すべきこととしては、「年齢や体力などに応じてスポーツができる場の提供」が 46.4%と他の項目よりも突出して多く、次いで「公共スポーツ施設の整備」「スポーツに関する広報・情報発信の強化」「スポーツ教室や競技大会などの開催」と続きます。



(5) 自由意見回答

自由回答欄には、373人の方から、431件の意見がありました。主な内容は次の通りです。

- ①運動・スポーツの機会、各種教室・イベントについて[65件]
 - * 1人でも気軽に行けるスポーツ教室があればもっと参加しやすい など
- ②広報、情報提供の充実・強化について[45件]
 - * 堺市内のスポーツ教室の情報をもっと発信してほしい など
- ③スポーツ関連施設の整備・充実について[78件]
 - * 区ごとに同じようなスポーツ施設を整備してほしい など
- ④施設の運用、利用条件の改善について[78件]
 - * 民間フィットネスクラブのように夜遅くまで開けてほしい など
- ⑤スポーツに関わる人材の育成、派遣について[26件]
 - * トレーナーやスポーツボランティアをもっと地元へ派遣してほしい など
- ⑥スポーツを取り巻く環境づくりについて[107件]
 - * 働きざかりの人々が健康に過ごせるようなスポーツ推進策を考えてほしい など
- ⑦その他の回答[25件]
 - * 地域やご近所との「つながり」を持つ施策が必要だと思う など

第2次堺市スポーツ推進計画

平成28年4月

堺市文化観光局スポーツ部スポーツ推進課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

電話：072-228-7437

堺市行政資料番号：1-K4-16-0048

